

WebSphere. Lombardi Edition 7.2

Process Portal ユーザー・ガイド



目次

著作権表示	1
概要	2
Lombardi 製品のコンポーネント	2
Lombardi アーキテクチャー	2
プロセスのライフサイクルについて	4
Lombardi Process Portal の始動	5
ユーザーのセットアップ	5
プロセスの構成	5
ログイン	5
初期ビューのナビゲーション	5
Process Portal タスク	7
プロセスの開始および管理	8
プロセスの開始および停止	8
新規プロセスの開始	9
受信ボックスからのプロセス・インスタンスの表示および管理	9
インスタンスの詳細ページからのプロセス・インスタンスの表示および管理	10
プロセス・インスタンスの中断	11
中断したプロセス・インスタンスの再開	11
プロセス・インスタンスの終了	12
アドホック・プロセスの開始	13
プロセス・インスタンスの期限の変更	15
Outlook の予定表へのプロセス・インスタンスの追加	16
プロセスの進行状況の表示	17
公開プロセス値 (EPV) の管理	18
タスクの管理	20
タスクの表示および管理	20
タスクの割り当て	21
ユーザーまたはグループへのタスクの割り当て	21
ユーザー自身へのタスクの割り当て	22
以前に割り当てたグループへのタスクの再割り当て	22
プロセス・インスタンス・ダイアグラムからのタスクの割り当て	23
タスクの期限の変更	24
タスクの優先順位の変更	24
タスク実行ヒストリーの表示	25
タスクの実行	27
受信ボックスからのタスクの実行	27
プロセス・インスタンスの詳細ページからのタスクの実行	27
Coach の処理	28
タスクのコラボレーション	29
ヘルプ要求の作成	29
ヘルプ要求の表示	29
プロセス・インスタンスへのコメントの追加	30
アラートの生成	31
アラートの表示	31
文書の処理	32
プロセス・インスタンスへの文書の添付	32
プロセス・インスタンスに添付されている文書の表示	33
プロセス・インスタンスに添付されている文書の改訂	33
Coach への文書の添付	34
レポートの処理	36
スコアボードの表示	36

レポート・データのエクスポート	37
Process Portal でのアドホック・レポートの作成	38
Process Portal でのアドホック・レポートの保存	40
アドホック・レポートの拡張フィルター	41
アドホック・レポートの Excel ファイルへのエクスポート	43
有効な検索の実行	44
高速検索の使用	44
ビジネス変数データの検索	44
検索の作成および保存	46
保存した検索の共用	47
タスクまたはインスタンス単位の検索結果の編成	47
クリティカル・パス管理機能の使用	49
クリティカル・パス管理機能へのアクセス	49
予測された期限の確認	50
クリティカル・パス予測の変更	50
プロセス・インスタンス設定の変更	52
プロセス・インスタンスの期限の変更	52
アクティビティーの設定の変更	52
プロセス・インスタンス値の一括変更	53
プロセス・インスタンス値の変更の保存および復帰	54
マイルストーン、アクティビティー、およびタスクの表示	54
クリティカル・パス・サンプル・プロセスの実行	55
クリティカル・パス・データの Excel へのエクスポート	57
Lombardi Process Portal のカスタマイズおよび保守	58
Process Portal 機能へのアクセスの制限	58
カスタム Process Portal ページの作成	61
プロセス・データの監査	61
設定の変更	62
Process Portal の言語の設定	62
Process Portal での統合認証の使用	63
Lombardi Process Portal のロック・アンド・フィールドのカスタマイズ	63
特記事項および商標	65
特記事項	65
商標	66

著作権表示

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[特記事項](#)に記載されている情報をお読みください。

© Copyright International Business Machines Corporation 2010. All Rights Reserved.

IBM WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 Licensed Materials - Property of IBM.

概要

IBM Websphere Lombardi Edition の Process Portal を使用すると、プロセスの開始と停止、プロセスごとのタスクの管理と実行、ならびに個人、チーム、およびプロセスのパフォーマンスの表示を行うことができます。以下のセクションに説明されているように、Lombardi Process Portal を使用すると、エンド・ユーザーは、Process Center Server またはランタイム環境の Process Server で Lombardi プロセスを実行した結果生じるタスクを完了できます。

Lombardi Process Portal の始動方法については、[Lombardi Process Portal の始動](#)を参照してください。

Lombardi 製品のコンポーネント

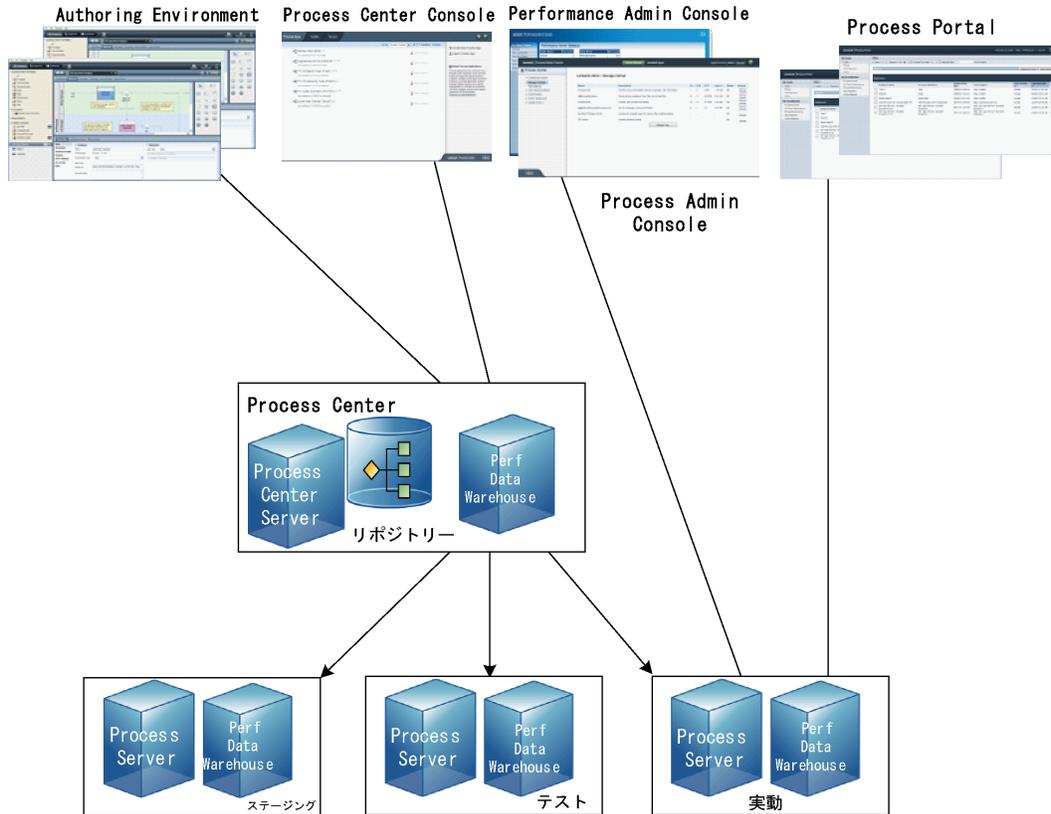
IBM® WebSphere® Lombardi Edition には、以下のコンポーネントが含まれています。次の表は、それらのコンポーネントが一般的にどのように構成されているかを示しています。

コンポーネント	機能
Process Center	Lombardi Authoring Environment の Process Center Console やその他のインターフェースで作業する複数のプロセス作成者に、中央の開発環境およびリポジトリを提供します。Process Center には Process Center Server と Performance Data Warehouse が含まれており、ユーザーは開発作業中にプロセス・アプリケーションをビルドして実行でき、テストとプレイバックの目的でパフォーマンス・データを保管することもできます。
Process Server	Lombardi Authoring Environment でビルドされ、Process Center リポジトリに保管され、その後、ランタイム環境にインストールされたプロセスおよびサービスを実行します。
Performance Data Warehouse	Lombardi Authoring Environment で設定されたトラッキング要件に従って、プロセス・データを収集および集約します。
Process Center Console	プロセス・アプリケーション、ワークスペース、およびスナップショットの管理も含め、ユーザーが Lombardi リポジトリを管理および保守できるようにします。また、ランタイム環境で、プロセス・アプリケーションを Process Server にインストールできるようにします。
Authoring Environment	Lombardi Authoring Environment は、プロセス作成者にビジネス・プロセスのモデル化、実装、シミュレーション、および検査を可能にする、いくつかのインターフェースから構成されています。
Process Portal	プロセス参加者に、割り当てられたタスクの実行、タスクの履歴の表示、およびプロセスとチームのパフォーマンスの表示を可能にするインターフェースを提供します。Process Portal を使用して、プロセス参加者は Process Center Server または任意の構成済みランタイム環境 (テスト環境や実稼働環境など) にある Process Server に接続できます。
Process Admin Console	管理者に、任意の構成済みランタイム環境 (テスト環境や実稼働環境など) にある Lombardi Process Server の構成と保守を可能にするインターフェースを提供します。また、管理者が Process Center Server を構成および保守できるようにします。
Performance Admin Console	管理者に、任意の構成済みランタイム環境 (テスト環境や実稼働環境など) にある Lombardi Performance Data Warehouse の構成と保守を可能にするインターフェースを提供します。また、管理者が Process Center に組み込まれた Performance Data Warehouse を構成および保守できるようにします。

Lombardi アーキテクチャー

次の図は、一般的な IBM WebSphere Lombardi Edition の構成の例を示しています。

概要

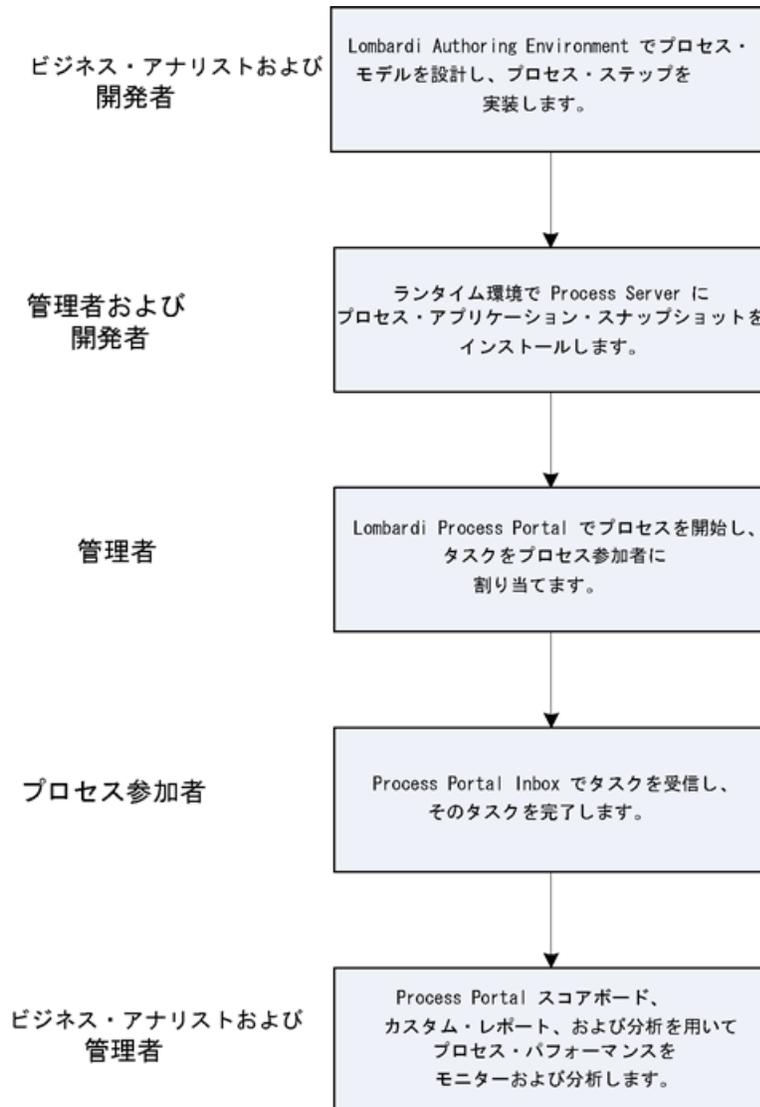


- Lombardi Authoring Environment から、複数のユーザーが Process Center に接続します。
- Lombardi Authoring Environment では、ユーザーはプロセス・モデルとそれをサポートする実装(プロセス・アプリケーション)を作成し、それらのアプリケーションとそれに関連する項目を Process Center リポジトリに保管します。Process Center に接続した Authoring Environment ユーザーは、項目を共用できます。
- Process Center には Process Center Server と Performance Data Warehouse が含まれており、Lombardi Authoring Environment で作業するユーザーは、開発作業中にプロセス・アプリケーションを実行して、テストおよびプレイバックの目的でパフォーマンス・データを保管できます。
- 管理者は Process Center Console から、ステージング、テスト、または実動用に準備が整ったプロセス・アプリケーションを、それらの環境の Process Server にインストールします。
- 管理者は Process Center Console から、すべての構成済み環境内で実行中のプロセス・アプリケーション・インスタンスを管理します。
- エンド・ユーザーは Process Portal から、割り当てられたタスクを実行します。構成済みランタイム環境の Process Center Server および各 Process Server は、割り当てられたタスクを作成するプロセス・アプリケーションを実行できます。
- Process Portal を使用して、プロセス参加者は、プロセスが開発中かテスト中か、それとも実稼働環境へリリースされたかに応じて、Process Center Server またはいずれかの構成済みランタイム環境の Process Server に接続することができます。
- Lombardi Performance Data Warehouse は Process Server または Process Center Server から、トラッキングされたデータを定期的な間隔で取り出します。ユーザーは Lombardi Authoring Environment および Process Portal で、そのデータを活用したレポートを作成および表示できます。

- 管理者は Process Admin Console および Performance Admin Console から、すべての Lombardi サーバーを管理および保守できます。

プロセスのライフサイクルについて

Lombardi プロセスには、Lombardi Process Portal から開始するように設計されたものや、外部イベントにより開始されるものがあります。標準的な Lombardi 構成では、管理者は Lombardi Process Portal から直接的にプロセス・インスタンスを開始、停止、または終了できます。以下の図は、標準的な Lombardi プロセスのライフサイクルを示します。



Lombardi で通常はプロセスの開発に従事する個々のユーザーのタイプの詳細については、「*Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド*」の『*Lombardi プロジェクトの計画*』を参照してください。

Lombardi Process Portal の始動

以下のセクションでは、IBM Websphere Lombardi Edition の Process Portal の使用を開始するための基本事項を説明します。

ユーザーのセットアップ

Lombardi Process Portal には `tw_user` アカウントを使用してログインできます。詳細については、「*Lombardi 管理ガイド*」の『ユーザー・アカウントのセットアップ』を参照してください。

プロセスの構成

以下の表は、Lombardi Process Portal でプロセスを構成してエンド・ユーザーにアクセス権限を与える方法を示します。

Process Portal のアクション	構成要件
プロセスの開始	1 つ以上のビジネス・プロセス定義 (BPD) への「 Expose to start 」アクセス権限が付与された参加者グループのメンバーであることが必要です。詳細については、「 <i>Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド</i> 」の『BPD の公開』を参照してください。
タスクの実行	BPD 内のアクティビティに割り当てられた参加者グループのメンバーであることが必要です。参加者グループ・メンバーはプロセスの開発時に設定され、プロセスのインストール時に調整できます。詳細については、「 <i>Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド</i> 」の『レーンへの参加者グループの割り当て』および「 <i>Lombardi 管理ガイド</i> 」の『ランタイム参加者グループの構成』を参照してください。

ログイン

以下のいずれかの方法で Lombardi Process Portal を始動します。

- `http://[host_name]:[port]/portal` ロケーションで Web ブラウザーを開きます。このとき、ホスト名には、Lombardi Process Center Server または Process Server がインストールされているホストの名前、ポートには、Lombardi のインストール時にサーバーに指定されたポートを指定します。
- Lombardi Process Center Server または Process Server がインストールされている Windows® ホスト上で作業する場合、「スタート」メニューから「**IBM WebSphere Lombardi Edition**」 > 「**Lombardi Process Portal**」を選択します。

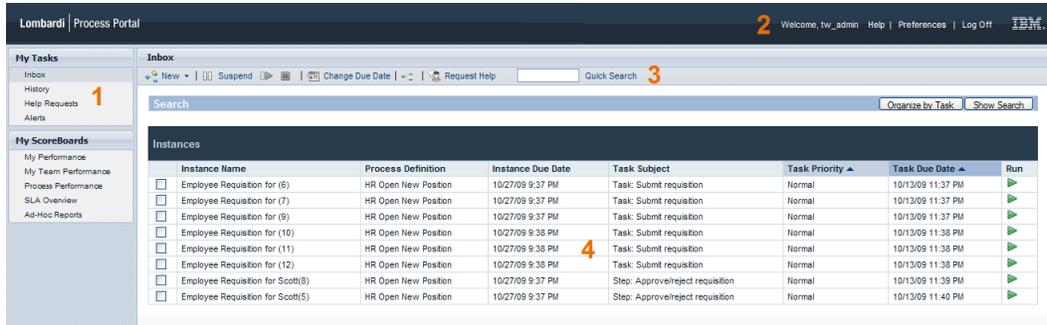
Lombardi ユーザー名およびパスワードを使用してログインします。



まだユーザー・アカウントを持っていない場合は、[ユーザーのセットアップ](#)を参照してください。

初期ビューのナビゲーション

初めて Lombardi Process Portal を始動すると、以下のように受信ボックスが開きます。



以下の表では、前の Process Portal インターフェースの図で番号が付加されている各領域について説明します。

1	<p>リンクを使用してタスク、スコアボード、およびプロジェクトにナビゲートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「My Tasks」 - 割り当てられたタスクを受信および完了します。詳細については、タスクの実行を参照してください。受信ボックスから、タスク実行履歴、他のプロセス参加者へのヘルプ要求、およびプロセス関連アラートを表示することもできます。 「My ScoreBoards」 - 個人およびチームのプロセス・パフォーマンスのモニター、カスタム・レポートの表示、およびアドホック・レポートの作成を行います。詳細については、レポートの処理を参照してください。 「My Projects」 - カスタム Process Portal ページにアクセスします。詳細については、カスタム Process Portal ページの作成を参照してください。
2	<p>この領域には、Process Portal の現行ユーザーの名前が表示されます。「Preferences」をクリックして、Eメールおよび言語の設定を指定します。「ヘルプ」をクリックして、Process Portal のオンライン・ユーザー・アシスタンスを開きます。</p>
3	<p>ツールバー・アイコンを使用して、プロセス・インスタンスおよびタスクを管理します。例えば、現在アクティブなプロセス・インスタンスの開始、中断、再開、または終了、ユーザーまたはグループへのタスクの割り当て、プロセス・インスタンスまたはタスクの期限の変更、プロセス・インスタンスおよびタスクの検索などを行うことができます。詳細については、プロセスの開始および管理およびタスクの管理を参照してください。</p>
4	<p>現在処理中の項目が表示されるメイン領域です。例えば、前の図では現行ユーザーの受信ボックスにタスクが表示されています。タスクは、各タスクを生成したプロセス・インスタンスに応じて表示されます。「Instance Name」または「Task Subject」をクリックすると、各タスクの詳細情報を確認できます。この領域では、検索結果の表示とソート、レポートとスコアボードの表示、および設定の編集を行うこともできます。</p>

ユーザーが Lombardi Process Portal で実行できるタスクの詳細については、[Process Portal タスク](#)を参照してください。

Process Portal タスク

以下の表は、IBM Websphere Lombardi Edition の Process Portal で実行できるタスクのタイプ、およびその詳細な説明が記載された関連トピックへのリンクをリストしたものです。

タスク	参照トピック
プロセスを開始し、これを時間どおりに完了できるように各プロセス・インスタンスの進行状況をモニターします。	プロセスの開始および管理
プロセス参加者にタスクを割り振り、必要に応じて、各タスクの期限や優先順位を調整します。	タスクの管理
フォームを埋めることや、他のプロセス参加者とのコラボレーションを行うことによって、割り当てられたタスクを完了します。	タスクの実行
タスクに文書を添付するか、または他のプロセス参加者が添付した文書を読みます。文書を使用すると、完了するタスクに関する重要な情報を提供できます。	文書の処理
各プロセス・インスタンスの個人およびチームのパフォーマンスを分析します。	レポートの処理
アクティブ/非アクティブのプロセス・インスタンスおよびタスクに対するカスタム・ビジネス・データ検索を作成して共有します。	有効な検索の実行
システム設定の編集、プロセス・データの監査、および Lombardi Process Portal のルック・アンド・フィールのカスタマイズを行います。	Lombardi Process Portal のカスタマイズおよび保守

プロセスの開始および管理

以下のセクションでは、IBM Websphere Lombardi Edition の Process Portal を使用してプロセスを開始、停止、モニター、および制御する方法について説明します。

タスクを実行するには、以下の条件を満たす必要があります。

- ビジネス・プロセス定義 (BPD) のアクティビティに割り当てられた参加者グループのメンバーであることが必要です。詳細については、[プロセスの構成](#)を参照してください。
- Lombardi Process Portal のプロセス管理機能を使用するためのアクセス権が必要です。詳細については、[Process Portal 機能へのアクセスの制限](#)を参照してください。
- Lombardi Process Portal にログインしてください。詳細については、[Lombardi Process Portal の始動](#)を参照してください。

プロセス・インスタンスの開始および管理の詳細については、以下のトピックを参照してください。

参照する操作方法	参照トピック
プロセス・インスタンスを開始、中断、再開、または終了します。	プロセスの開始および停止
プロセス・インスタンスの期限を変更します。	プロセス・インスタンスの期限の変更
プロセス・インスタンスを Microsoft® Outlook の予定表に追加して、プロセス・インスタンスを Outlook の予定表で予定として使用します。	Outlook の予定表へのプロセス・インスタンスの追加
プロセス・ダイアグラムを表示して、現在のプロセス・インスタンスに関する情報を確認します。	プロセスの進行状況の表示
公開プロセス値 (EPV) を管理および編集して、プロセスのタスクのフローおよび割り当てに影響を与えます。	公開プロセス値 (EPV) の管理

プロセスの開始および停止

以下のセクションでは、Lombardi Process Portal でプロセス・インスタンスを開始、中断、再開、または終了する方法について説明します。

- [新規プロセスの開始](#)
- [受信ボックスからのプロセス・インスタンスの表示および管理](#)
- [インスタンスの詳細ページからのプロセス・インスタンスの表示および管理](#)
- [プロセス・インスタンスの中断](#)
- [中断したプロセス・インスタンスの再開](#)
- [プロセス・インスタンスの終了](#)
- [アドホック・プロセスの開始](#)

新規プロセスの開始

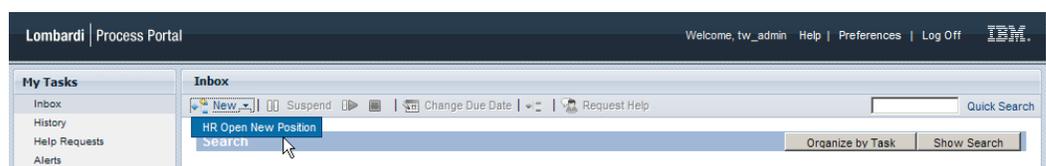
プロセスを開始すると、そのプロセスのインスタンスが生成され、そこでプロセス参加者はそのプロセスの目標を達成するために完了する必要があるすべてのタスクを実行できます。同時に異なるプロセスを実行でき、同じプロセスの複数の並行インスタンスを実行できます。



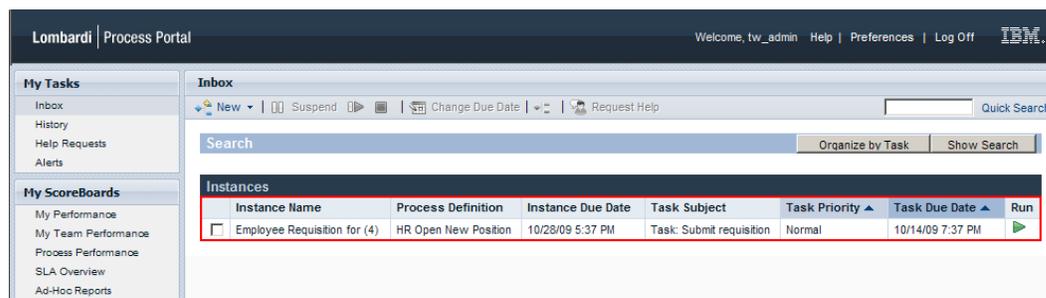
以下の手順を実行する前に、Lombardi Process Portal から開始するプロセスのビジネス・プロセス定義 (BPD) をユーザー自身に公開する必要があります。詳細については、[プロセスの構成](#)を参照してください。

1. 以下の図に示すように、ツールバーの「New」アイコンをクリックします。
2. プロセスのドロップダウン・リストから、開始するプロセスの名前を選択します。

以下の例では、現行ユーザーは「HR Open New Position」という名前のプロセスを開始します。



3. 以下の図に示すように、Lombardi Process Portal でプロセスが開始され、そのプロセスの最初のアクティビティ (ステップ) を完了できるプロセス参加者の受信ボックスにタスクが送信されます。



プロセスを開始した人が、そのプロセスの最初のアクティビティを完了するように割り当てられた参加者グループのメンバーでもある場合、その人は、プロセスが開始したことを示す通知を受信し、その受信ボックスに Process Portal によってタスクが生成されます。そのタスクを実行しない場合、タスクは受信ボックスに残り、「Run」アイコン (緑色の三角形) は割り当てられたどのユーザーもそのタスクを開始していないことを示します。

最初のタスクを完了するように割り当てられた参加者グループのメンバー以外のユーザーが、そのプロセスを開始した場合、そのユーザーはプロセスが開始されたことを示す通知を受信します。さらに、最初のタスクを完了できる各プロセス参加者の受信ボックスにも、そのタスクが表示されます。

プロセス・インスタンスの管理の詳細については、[受信ボックスからのプロセス・インスタンスの表示および管理](#)および[インスタンスの詳細ページからのプロセス・インスタンスの表示および管理](#)を参照してください。プロセス・インスタンスの詳細ページからのタスクの管理の詳細については、[タスクの管理](#)を参照してください。

受信ボックスからのプロセス・インスタンスの表示および管理

Lombardi Process Portal の受信ボックスから、ユーザーまたはそのユーザーがメンバーとして所属する参加者グループに割り当てられているタスクを表示および実行できます。受信ボックスを表示するには、

「My Tasks」 > 「Inbox」を選択します。以下の例では、受信ボックスに複数のタスクのリストが表示されています。各タスクを生成したプロセス・インスタンスに応じて、タスクが表示されます。列名をクリックすると、列内のデータをソートできます。プロセス・インスタンスのタスクを開始するには、「Run」アイコン (緑色の三角形) をクリックします。



他のユーザーおよびグループに割り当てられているタスクを表示するには、「My Team Performance」スコアボードを使用します。詳細については、[スコアボードの表示](#)を参照してください。

プロセス管理機能を使用するアクセス権を持っている場合 ([Process Portal 機能へのアクセスの制限](#)を参照)、受信ボックスにタスクを生成したプロセス・インスタンスを管理できます。このビューからプロセス・インスタンスを管理するには、プロセス・インスタンスの横にあるチェック・ボックスを選択し、実行する機能のツールバー・アイコンを選択する必要があります。例えば、プロセス・インスタンスの中断や他のプロセス参加者へのヘルプ要求を行うことができます。一部の機能では、複数のプロセス・インスタンスを選択し、選択したすべてのプロセス・インスタンスにその特定の機能を同時に適用することができます。例えば、複数のプロセス・インスタンスの期限を同時に変更できます。

The screenshot shows the 'My Tasks' page in the Process Portal. The 'Inbox' section contains a table of process instances. The table has columns for Instance Name, Process Definition, Instance Due Date, Task Subject, Task Priority, Task Due Date, and Run. The third instance is selected with a red checkmark in the checkbox column.

Instance Name	Process Definition	Instance Due Date	Task Subject	Task Priority	Task Due Date	Run
<input type="checkbox"/> Employee Requisition for (4)	HR Open New Position	10/28/09 5:37 PM	Task: Submit requisition	Normal	10/14/09 7:37 PM	
<input type="checkbox"/> Employee Requisition for (5)	HR Open New Position	10/28/09 5:43 PM	Task: Submit requisition	Normal	10/14/09 7:43 PM	
<input checked="" type="checkbox"/> Employee Requisition for (6)	HR Open New Position	10/28/09 5:43 PM	Task: Submit requisition	Normal	10/14/09 7:43 PM	
<input type="checkbox"/> Employee Requisition for (7)	HR Open New Position	10/28/09 5:43 PM	Task: Submit requisition	Normal	10/14/09 7:43 PM	

インスタンスの詳細ページからのプロセス・インスタンスの表示および管理

プロセス・インスタンスの詳細情報を表示するには、「My Tasks」 > 「Inbox」から、受信ボックス内のプロセス・インスタンスの名前をクリックします。プロセス・インスタンスの詳細ページから、プロセス・インスタンスの中断や他のプロセス参加者へのヘルプ要求など、受信ボックスから使用可能なすべての機能を実行できます。プロセス・インスタンスの詳細ページでは、プロセス参加者へのタスクの割り当て、タスクの期限の変更、タスクの優先順位の変更など、受信ボックスから実行できない追加機能を実行することができます。以下の図は、プロセス・インスタンスの詳細ページから実行できる追加機能のツールバー・アイコンを示します。

The screenshot shows the 'Instance Details' page for 'HR Open New Position (Employee Requisition for Bob Smith(14))'. The page includes a toolbar with icons for 'Assign to Me', 'Change Due Date', 'Audit', 'Request Help', and 'Add to Calendar'. Below the toolbar, there are sections for 'Instance Details', 'Tasks', 'Collaboration', and 'Documents'.

Instance Details:

Process Definition:	HR Open New Position	Status:	Active
Instance Name:	Employee Requisition for Bob Smith(14)	Due Date:	10/28/09 6:04 PM
Instance ID:	14		

Tasks:

Activity Name	Status	Participant	Priority	Due Date	Run
<input checked="" type="checkbox"/> Approve/reject requisition	Received	GeneralManagers	Normal	10/14/09 8:06 PM	

Collaboration:

Type	Date	From	To	Comment

Documents:

Name	Revision	Revision Date	Last Modified By

プロセス・インスタンスの詳細ページは、以下のセクションで構成されます。

Instance Details	ビジネス・プロセス定義 (BPD) の名前、プロセス・インスタンスの名前、インスタンス ID、現在の状況 (アクティブ、中断状態など)、およびプロセス・インスタンスの完了期限が表示されます。
タスク	プロセス・インスタンスに関連付けられているタスクがリストされます。すべてのタスクまたは未処理 (保留) タスクのみを表示できます。オープン・タスクごとに、「Run」アイコン (緑色の三角形) をクリックしてそのタスクを開始できます。各タスクに関連付けられた BPD 内のアクティビティの名前、タスクの状況 (受信済み、完了済みなど)、タスクが割り当てられたユーザーまたはグループ、タスクの優先順位 (低、中、高など)、およびタスクを割り当てられたユーザーまたはグループがそのタスクを完了しなければならない期限を確認できます。アクティビティ名をクリックすると、そのタスクの詳細が表示されます。詳細については、 タスクの管理 を参照してください。
コラボレーション	プロセス参加者が通知したヘルプ要求およびコメントが表示されます。詳細については、 タスクのコラボレーション を参照してください。
Documents	プロセス・インスタンスに関連する文書をアップロードします。詳細については、 文書の処理 を参照してください。

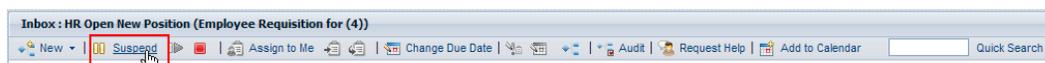
プロセス・インスタンスの中断

プロセス・インスタンスを中断して、一時的に非アクティブ化できます。中断すると、プロセス・インスタンスとその関連タスクは完了できなくなります。例えば、プロセス・インスタンスおよびタスクの期限を調整するために、プロセス・インスタンスの作業を短期間、一時停止することが必要な場合があります。中断したプロセス・インスタンスは、再開するまで非アクティブのままです。



プロセス・インスタンスを中断するには、[Process Portal 機能へのアクセスの制限](#)の説明にあるようなアクセス権が必要です。

1. 「My Tasks」 > 「Inbox」から、中断するプロセス・インスタンスの名前をクリックします。
2. プロセス・インスタンスの詳細ページから、以下の図に示すように、ツールバーの「Suspend」をクリックします。



3. プロセス・インスタンスが非アクティブ化され、状況は中断状態へと変更されます。現行タスクの「Run」アイコン (緑色の三角形) は使用不可になります。現行タスクは、そのタスクが割り当てられたプロセス参加者の受信ボックスに残ります。



受信ボックスから、複数のプロセス・インスタンスを同時に選択して中断することができます。詳細については、[受信ボックスからのプロセス・インスタンスの表示および管理](#)を参照してください。

中断したプロセス・インスタンスの再開

中断したプロセス・インスタンスを再開して、プロセス・インスタンスをアクティブ状態に復元することができます。再開すると、プロセス・インスタンスとその関連タスクを完了できるようになります。



プロセス・インスタンスを再開するには、[Process Portal 機能へのアクセスの制限](#)の説明にあるようなアクセス権が必要です。

1. 「My Tasks」 > 「Inbox」から、再開する中断状態のプロセス・インスタンスの名前をクリックします。
2. プロセス・インスタンスの詳細ページから、以下の図に示すように、ツールバーの「Resume」アイコンをクリックします。



3. プロセス・インスタンスの状況がアクティブへと変更され、現行タスクの「Run」アイコン (緑色の三角形) が、そのタスクが割り当てられたプロセス参加者の受信ボックスで使用可能になります。



受信ボックスから、複数の中断状態のプロセス・インスタンスを同時に選択して再開することができます。詳細については、[受信ボックスからのプロセス・インスタンスの表示および管理](#)を参照してください。

プロセス・インスタンスの終了

プロセス・インスタンスを永続的に終了することができます。終了すると、プロセス参加者は関連タスクにアクセスできなくなり、プロセス・インスタンスは完了できなくなります。例えば、ビジネス・プロセス定義(BPD)の実装またはその基盤となるサービスの実行に問題があるときに、そのプロセスの終了が必要になる場合があります。



プロセス・インスタンスを終了するには、[Process Portal 機能へのアクセスの制限](#)の説明にあるようなアクセス権が必要です。

1. 「My Tasks」 > 「Inbox」から、終了するプロセス・インスタンスの名前をクリックします。
2. プロセス・インスタンスの詳細ページから、以下の図に示すように、ツールバーの「Terminate」アイコンをクリックします。



3. プロセス・インスタンスは受信ボックスから履歴に移動し、状況は「Terminated」へと変更されます。現行タスクの「Run」アイコン (緑色の三角形) は永続的に使用不可になり、現行タスクが割り当てられたすべてのプロセス参加者の受信ボックスからプロセス・インスタンスが削除されます。

Instance Name	Process Definition	Instance Status	Task Subject	Task Priority	Task Due Date	Run
<input type="checkbox"/> Employee Requisition for bob(3)	HR Open New Position	Terminated	Step: Approve/reject requisition	Normal	10/14/09 7:35 PM	
<input type="checkbox"/> Employee Requisition for Bob Smith(14)	HR Open New Position	Terminated	Task: Submit requisition	Normal	10/14/09 8:04 PM	



受信ボックスから、複数のプロセス・インスタンスを同時に選択して終了することができます。詳細については、[受信ボックスからのプロセス・インスタンスの表示および管理](#)を参照してください。

アドホック・プロセスの開始

プロセス・インスタンスの実行中にどの時点でもアドホック・プロセスを開始できます。アドホック・プロセスは、実行中のプロセス・インスタンスのすべてのデータにアクセスすることができ、さらに、そのプロセス・フローも操作できます。



ビジネス・プロセス定義 (BPD) に「Start Ad-hoc Event」を組み込み、アドホック・プロセスの実行を有効にする必要があります。詳細については、「*Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド*」の『イベントのモデル化』を参照してください。

共通のアドホック・プロセス・パターンは、以下のとおりです。

- 追加承認ステップを実行します。
- 注文要求の状況に関するレポートを作成します。
- お客様の注文をいつでも取り消します。

プロセス・インスタンス内でアドホック・プロセスを開始するには、以下の手順を実行します。

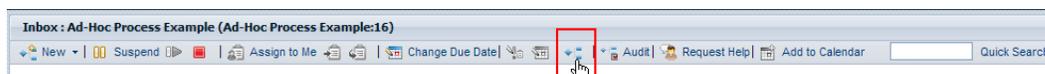


Lombardi Process Portal でアドホック・プロセスを開始するには、[Process Portal 機能へのアクセスの制限](#)の説明にあるようなアクセス権が必要です。

1. 「**My Tasks**」 > 「**Inbox**」から、プロセス・インスタンスの名前をクリックします。
2. プロセス・インスタンスの詳細ページから、以下の図に示すように、ツールバーの「**Show Process Instance Diagram**」アイコンをクリックします。



プロセス・インスタンス・ダイアグラムの表示の詳細については、[プロセスの進行状況の表示](#)を参照してください。

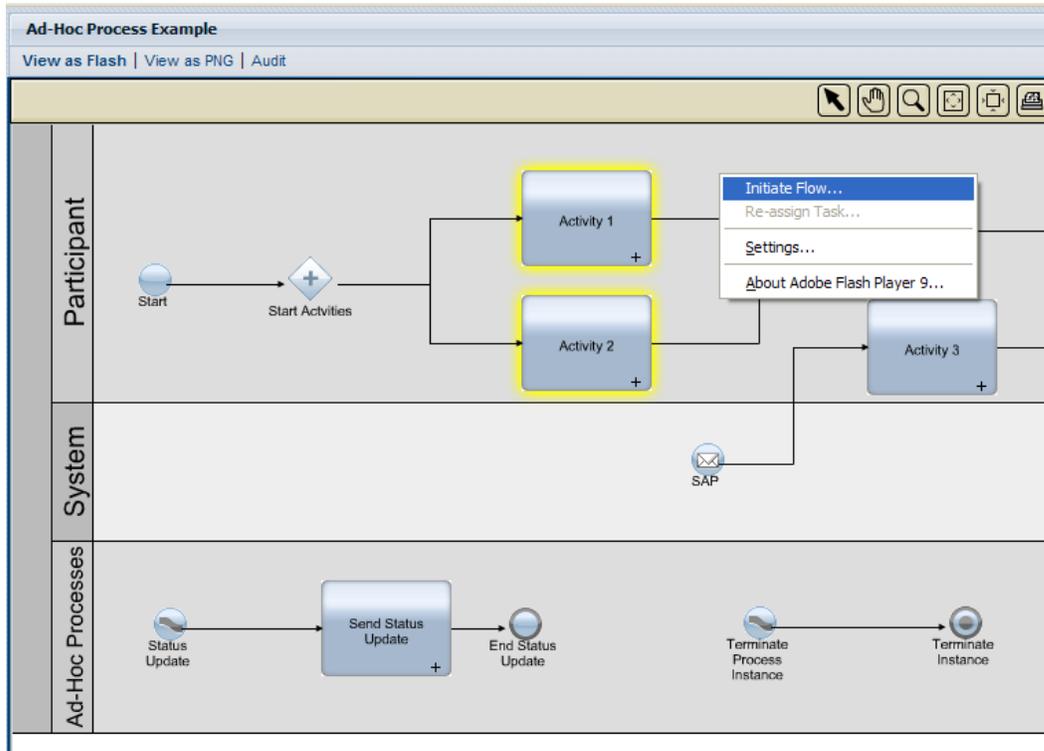


3. ウィンドウの上部の「**View as Flash**」をクリックします。
4. ダイアグラム内部を右クリックし、「**Initiate Flow**」を選択して、1つ以上の使用可能なアドホック・プロセスを開始します。

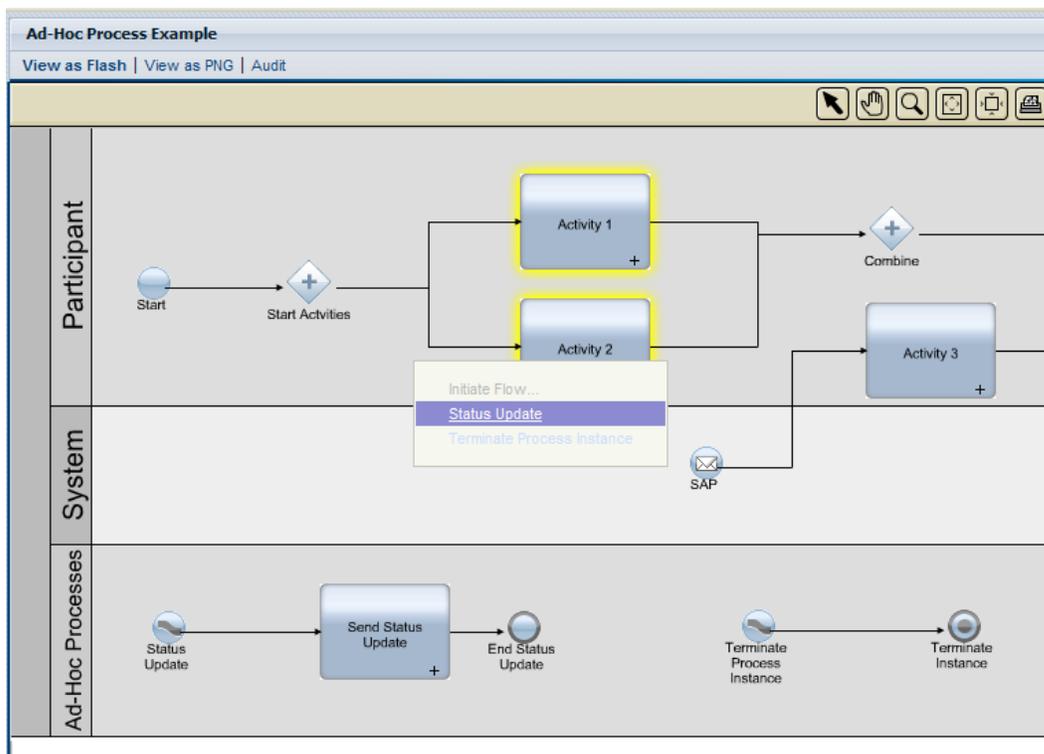


表示している BPD に「Start Ad-hoc Event」が組み込まれていない場合、「**Initiate Flow**」オプションは選択できません。

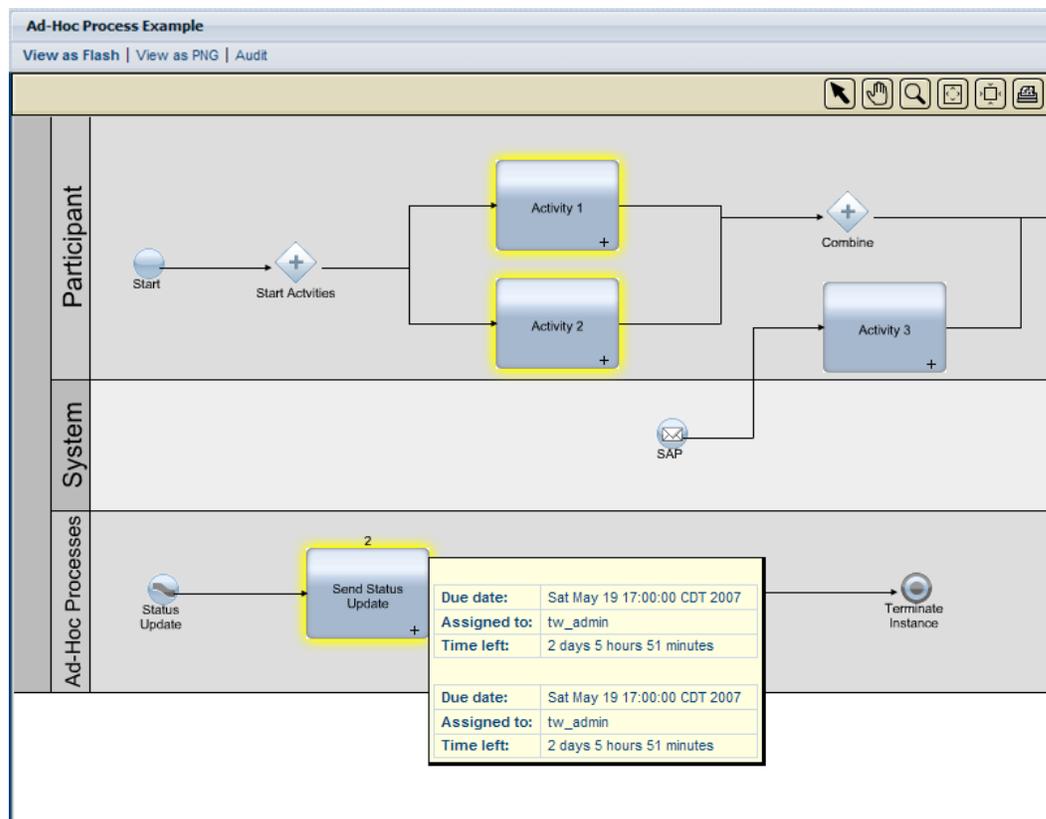
プロセスの開始および管理



5. メニューが開き、アドホック・プロセスのリストが表示されます。開始するアドホック・プロセスを選択します。以下の例では、メニューから「**Status Update**」というアドホック・プロセスが選択されています。



6. アドホック・プロセスのインスタンスが開始されます。以下の例では、「**Send Status Update**」というアクティビティ(黄色の強調表示)により、通常のプロセス・インスタンスの状況を含むタスクが生成されます。アクティビティの上にマウス・ポインターを移動すると、そのタスクの詳細が表示されます。



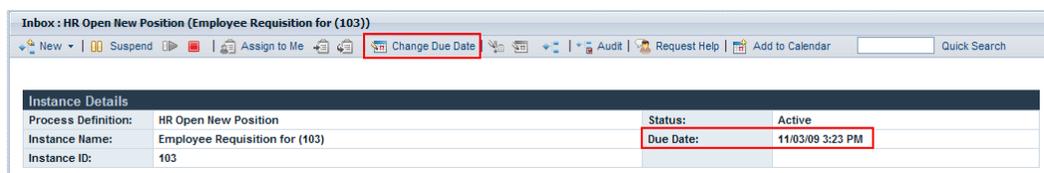
プロセス・インスタンスの期限の変更

現在のプロセス・インスタンスが進行してプロセス参加者がそのタスクを完了するときに、問題が出現したか、またはプロセス参加者のアベイラビリティが変化したため、プロセス・インスタンスの期限を変更することができます。例えば、プロセス参加者がスケジュールより早くタスクを完了する場合、そのプロセス・インスタンスの期限を前に移動させることができます。逆に、プロセス参加者がタスクを予定どおりに完了できない場合は、そのプロセス・インスタンスの期限を先に延期することができます。期限の日付を変更すると、変更したプロセス・インスタンスのタスクを担当するすべてのユーザーは、受信ボックスでその新しい日付を確認できます。



プロセス・インスタンスの期限を変更するには、[Process Portal機能へのアクセスの制限](#)の説明にあるようなアクセス権が必要です。

1. 「**My Tasks**」 > 「**Inbox**」から、期限を変更するプロセス・インスタンスの名前をクリックします。
2. プロセス・インスタンスの詳細ページから、以下の図に示すように、ツールバーの「**Change Due Date**」アイコンをクリックします。



- 「Choose a New Due Date and Time」ダイアログ・ボックスで、新しい期限となる日時を指定して「OK」をクリックします。



Lombardi Authoring Environment で BPD およびそのアクティビティに設定されている作業スケジュールと矛盾が生じる場合であっても、日時の変更を許可する場合は、「**Allow changes even if they conflict with the assigned users Work Schedules**」オプションを選択します (詳細については、「*Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド*」の『BPD の作業スケジュールの設定』を参照)。

- プロセス・インスタンスの詳細ページの「Instance Details」セクションに、新しい期限の日時が表示されます。



プロセス・インスタンスの期限を変更しても、まだ完了していないタスクの期限には影響しません。プロセス・インスタンスの期限を変更するときは、他のタスクの期限を変更することも必要になる場合があります。詳細については、[タスクの期限の変更](#)を参照してください。

Outlook の予定表へのプロセス・インスタンスの追加

Windows 上で Lombardi Process Portal を Microsoft Outlook と一緒に稼働すると、プロセス・インスタンスを Outlook の予定表に追加できるため、プロセス・インスタンスが予定表内の予定になります。これにより、プロセス・インスタンスの期限を Outlook クライアントでモニターできます。例えば、費用レポートを承認する必要があり、各着信レポートがプロセス・インスタンスによって表される場合、各着信レポートの予定を作成して、各インスタンスの期限が近づくとリマインダー通知を受け取ることができます。

- 「My Tasks」 > 「Inbox」から、Outlook の予定表に追加するプロセス・インスタンスの名前をクリックします。
- プロセス・インスタンスの詳細ページから、以下の図に示すように、ツールバーの「Add to Calendar」アイコンをクリックします。



- Web ブラウザーからプロンプトが出されたら、予定表ファイル (getCalendar.do) をダウンロードします。
- 新しい予定が Microsoft Outlook クライアントに作成されます。予定の名前と件名は、プロセス・インスタンスの名前と同じになります。

Outlook のリマインダー通知に開始時刻と終了時刻を指定できます。予定のメッセージ・フィールドには、プロセス・インスタンスの期限が近づくと Lombardi Process Portal のそのインスタンスに直接リンクするハイパーリンクが組み込まれます。操作が完了したら、リマインダー通知を保存して閉じます。

プロセスの進行状況の表示

受信ボックスの各プロセス・インスタンスごとに、プロセス・ダイアグラムを表示して現在実行中のステップを確認できます。プロセス参加者が割り当てられたタスクを完了すると、プロセス・インスタンスはプロセス・ダイアグラムに沿ってステップ順に進行します。Lombardi Process Portal では Adobe Flash Player を使用してプロセス・ダイアグラムの対話式ビューがレンダリングされるため、プロセスの各ステップで現行データに簡単にアクセスできます。



プロセス・ダイアグラムを表示するには、[Process Portal 機能へのアクセスの制限](#)の説明にあるようなアクセス権が必要です。

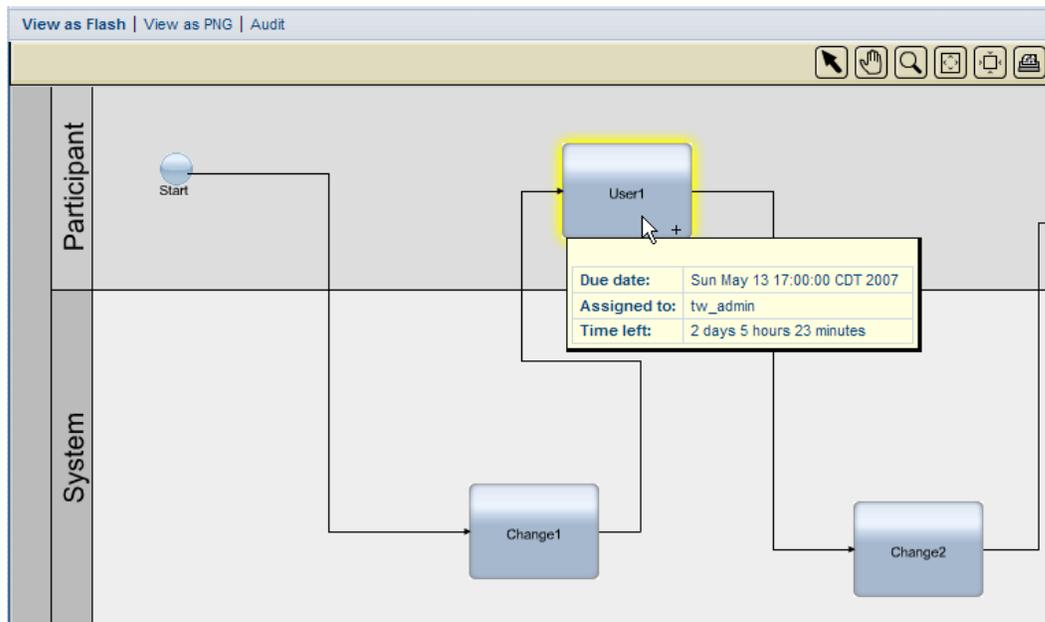
プロセス・インスタンスのプロセス・ダイアグラムを表示するには、以下の手順を実行します。

1. 「My Tasks」 > 「Inbox」から、表示するプロセス・インスタンスの名前をクリックします。
2. プロセス・インスタンスの詳細ページから、以下の図に示すように、ツールバーの「Show Process Instance Diagram」アイコンをクリックします。



プロセス・ダイアグラムが新しいウィンドウで開きます。

3. ウィンドウの上部の「View as Flash」をクリックします。プロセス・ダイアグラムでは、現行アクティビティが黄色で強調表示されます。
4. ダイアグラム内のアクティビティの上にマウス・ポインターを移動して、その状況を表示します。アクティビティの期限、アクティビティの関連タスクを実行するように割り当てられたプロセス参加者、アクティビティを完了するための残り時間などの情報が、ツールチップに表示されます。



5. ウィンドウの上部の「View as PNG」をクリックして、ファイル・システムに保存可能なイメージ・ファイルを表示します。



ウィンドウの上部の「Audit」をクリックすると、プロセス・インスタンスのビジネス変数データを表示できます。詳細については、[プロセス・データの監査](#)を参照してください。

公開プロセス値 (EPV) の管理

公開プロセス値 (EPV) は、プロセス実行時に特定のユーザーが変更できる変数です。この値を変更すると、Lombardi Process Portal のプロセス・インスタンスのフローやタスクの割り当てなどに影響します。例えば、承認を必要とする支出のドル金額の変更が特定のユーザーに許可される場合があり、従って、どの支出で承認ステップが行われるか、そして誰が承認を実行する必要があるかに影響します。詳細については、「*Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド*」の『公開プロセス値 (EPV) の作成』を参照してください。

Lombardi Process Portal では、Lombardi レポート内の EPV を変更できます。Lombardi レポートに 1 つ以上の EPV が組み込まれている場合、「Manage EPVs」オプションがレポートの上部に表示されます。



管理する EPV がレポートに組み込まれていない場合、Process Admin Console で構成済みの EPV の値を変更して、それぞれの新しい値を有効にする日時を設定します。詳細については、「*Lombardi 管理ガイド*」の『公開プロセス値 (EPV) の管理』を参照してください。

1. レポートの上部の「**Manage EPVs**」オプションをクリックします。
2. ドロップダウン・メニューを使用して、変更する EPV を含むプロセス・アプリケーション・スナップショットを選択します。
3. ドロップダウン・メニューを使用して、編集する EPV を選択します。

以下の図に示すように、Process Portal に変更可能な EPV の変数値が表示されます。

Manage Exposed Process Values

Exposed Process Values Feedback:

Snapshot	Modeling Example (ME) - Import 1234196572413	
Name	erApprovalThresholds	
Description		

Variable List		
Variable Name	Description	Current Value
director	Expense level requiring director approval	1000
executive	Expense level requiring executive approval	5000
vp	Expense level requiring vp approval	2000

4. 以下の図に示すように、変更する変数の行をクリックして「**New**」ボタンをクリックします。
5. 「公開プロセス値」ポップアップ・ウィンドウで新しい値を入力し、その新しい値を有効にする日時を設定して、「**OK**」ボタンをクリックします。
6. 変更する変数ごとに手順 4 と 5 を繰り返します。同じ変数に複数の値を入力して、それぞれの値を異なる日時で有効にすることができます。

以下の図に示すように、Process Portal では各変数ごとのすべての変更内容が別の表に表示されます。

Manage Exposed Process Values

Exposed Process Values Feedback:

Snapshot	Modeling Example (ME) - Import 1234196572413
Name	erApprovalThresholds
Description	

Variable List		
Variable Name	Description	Current Value
director	Expense level requiring director approval	1000
executive	Expense level requiring executive approval	5000
vp	Expense level requiring vp approval	2000

Schedule Change / View Details			
Effective Date	Value	Modified By	Modified Date
04/16/2009 16:00:55	7000	tw_admin	02/11/2009 10:06:19
02/13/2009 16:01:16	6000	tw_admin	02/11/2009 10:07:34

7. 必要に応じて、行をクリックしてから「編集」または「削除」ボタンをクリックして変更内容を編集または削除します。

タスクの管理

以下のセクションでは、IBM Websphere Lombardi Edition の Process Portal でプロセス・インスタンスを実行する場合に生成されるタスクを管理する方法について説明します。

タスクを実行するには、以下の条件を満たす必要があります。

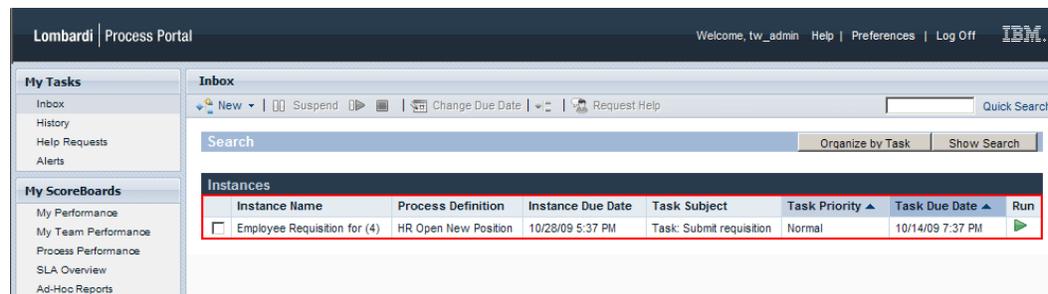
- ビジネス・プロセス定義 (BPD) のアクティビティに割り当てられた参加者グループのメンバーであることが必要です。詳細については、[プロセスの構成](#)を参照してください。
- Lombardi Process Portal のタスク管理機能を使用するためのアクセス権が必要です。詳細については、[Process Portal 機能へのアクセスの制限](#)を参照してください。
- Lombardi Process Portal にログインしてください。詳細については、[Lombardi Process Portal の始動](#)を参照してください。
- ユーザーが参加者である、BPD の少なくとも 1 つのインスタンスを実行している必要があります。詳細については、[プロセスの開始および管理](#)を参照してください。

タスクの管理の詳細については、以下のトピックを参照してください。

参照する操作方法	参照トピック
プロセス・インスタンスの詳細ページからタスクを表示および管理します。	タスクの表示および管理
タスクを自分自身または他の Lombardi ユーザーおよびグループに割り当てます。	タスクの割り当て
タスクの期限を変更して、プロセス・インスタンスの完了に必要なすべてのタスクが、指定された時間フレーム内に確実に実行されるようにします。	タスクの期限の変更
必要に応じて、タスクの優先順位を変更して、タスクのエスカレートまたは逆エスカレートを行います。	タスクの優先順位の変更
以前に受信ボックスにあったが、非アクティブになったタスクの履歴を表示します。	タスク実行履歴の表示

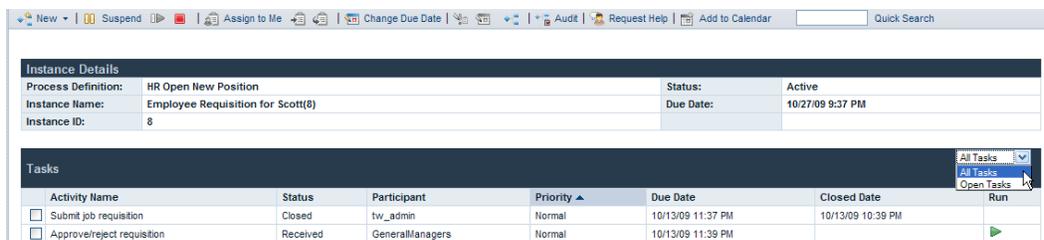
タスクの表示および管理

プロセス・インスタンスを開始すると、以下の図に示すように、Lombardi Process Portal でそのプロセスの最初のアクティビティ(ステップ)を完了できるプロセス参加者の受信ボックスにタスクが送信されます。「My Tasks」>「Inbox」から、ユーザーまたはそのユーザーがメンバーとして所属する参加者グループに割り当てられたタスクを表示および実行できます。各タスクを生成したプロセス・インスタンスに応じて、タスクが表示されます。プロセス・インスタンスのタスクを開始するには、「Run」アイコン(緑色の三角形)をクリックします。



タスク管理機能を使用するアクセス権を持っている場合 ([Process Portal 機能へのアクセスの制限](#)を参照)、受信ボックスでタスクを管理できます。受信ボックスでタスクの名前をクリックすると、プロセス・インスタンスの詳細ページが開きます。プロセス・インスタンスの詳細ページの「タスク」セクションでは、各タスクに関連付けられた BPD 内のアクティビティーの名前、タスクの状況 (受信済み、完了済みなど)、タスクが割り当てられたユーザーまたはグループ、タスクの優先順位 (低、中、高など)、およびタスクを割り当てられたユーザーまたはグループがそのタスクを完了しなければならない期限を確認できます。オープン・タスクごとに、「Run」アイコン (緑色の三角形) をクリックしてそのタスクを開始できます。完了済みの各タスクには、そのタスクを閉じた日時が表示されます。

このビューからタスクを管理するには、タスクの横にあるチェック・ボックスを選択し、実行する機能のツールバー・アイコンを選択する必要があります。例えば、異なる Lombardi ユーザーまたはグループにタスクを割り当てることができます。一部の機能では、複数のタスクを選択し、選択したすべてのタスクにその特定の機能を同時に適用することができます。例えば、複数のタスクの期限を同時に変更できます。以下のセクションでは、Lombardi タスクに対してこれらの機能を完了するための詳細な説明が記載されています。



Instance Details						
Process Definition:	HR Open New Position	Status:	Active			
Instance Name:	Employee Requisition for Scott(8)	Due Date:	10/27/09 9:37 PM			
Instance ID:	8					

Tasks						
Activity Name	Status	Participant	Priority	Due Date	Closed Date	
<input type="checkbox"/> Submit job requisition	Closed	tw_admin	Normal	10/13/09 11:37 PM	10/13/09 10:39 PM	
<input type="checkbox"/> Approve/reject requisition	Received	GeneralManagers	Normal	10/13/09 11:39 PM		



このビューからアクティビティー名をクリックすると、各タスクの追加詳細情報を表示できます。

タスクの割り当て

以下のセクションでは、タスクを Lombardi ユーザーおよびグループに割り当てる方法について説明します。



タスクを割り当てるには、[Process Portal 機能へのアクセスの制限](#)の説明にあるようなアクセス権が必要です。

ユーザーまたはグループへのタスクの割り当て

受信ボックスのタスクをグループに割り当てると、そのグループのメンバーであるすべてのユーザーがそのタスクにアクセスしてタスクを実行できます。異なるユーザーに受信ボックスのタスクを割り当てると、そのユーザーがそのタスクにアクセスして実行できます。タスクをグループに割り当てると、そのタスクは、そのグループのメンバーである各ユーザーの受信ボックスに表示されます。

1. 「My Tasks」 > 「Inbox」から、タスクの名前をクリックします。
2. プロセス・インスタンスの詳細ページの「タスク」セクションで、割り当てるタスクの横のチェック・ボックスを選択します。
3. 以下の図に示すように、ツールバーの「Reassign Task to a User or Group」アイコンをクリックします。



- 「Choose a New User or Group」ダイアログ・ボックスで、プロセス・インスタンスの割り当て先にする Lombardi ユーザーまたはグループの名前を指定し、「OK」をクリックします。

新しい割り当て先の名前が、プロセス・インスタンスの詳細ページの「タスク」セクションの「参加者」フィールドに表示されます。



プロセス・インスタンス・ダイアグラムを表示するときに、タスクをユーザーまたはグループに割り当てることもできます。詳細については、[プロセス・インスタンス・ダイアグラムからのタスクの割り当て](#)を参照してください。

ユーザー自身へのタスクの割り当て

ユーザーがメンバーとして所属するグループに、現在、タスクが割り当てられている場合、そのユーザーのみがそのタスクを実行できるように、そのタスクをユーザー自身に割り当てることができます。

- 「My Tasks」 > 「Inbox」から、タスクの名前をクリックします。
- プロセス・インスタンスの詳細ページの「タスク」セクションで、割り当てるタスクの横のチェック・ボックスを選択します。
- 以下の図に示すように、ツールバーの「Assign to Me」アイコンをクリックします。



新しい割り当て先の名前が、プロセス・インスタンスの詳細ページの「タスク」セクションの「参加者」フィールドに表示されます。



ユーザーがメンバーとして所属するグループに現在割り当てられているタスクを実行すると、そのタスクは自動的にそのユーザーに割り当てられます。

以前に割り当てたグループへのタスクの再割り当て

タスクが現在割り当てられている場合、そのユーザーは、そのタスクが以前に割り当てられていたグループに、そのタスクを割り当てることができます。

- 「My Tasks」 > 「Inbox」から、タスクの名前をクリックします。
- プロセス・インスタンスの詳細ページの「タスク」セクションで、ユーザーに割り当てられているタスクの横のチェック・ボックスを選択します。
- 以下の図に示すように、ツールバーの「Reassign Task Back to Group」アイコンをクリックします。



新しい割り当て先の名前が、プロセス・インスタンスの詳細ページの「タスク」セクションの「参加者」フィールドに表示されます。



プロセス・インスタンス・ダイアグラムを表示するときに、タスクをグループに割り当てることもできます。詳細については、[プロセス・インスタンス・ダイアグラムからのタスクの割り当て](#)を参照してください。

プロセス・インスタンス・ダイアグラムからのタスクの割り当て

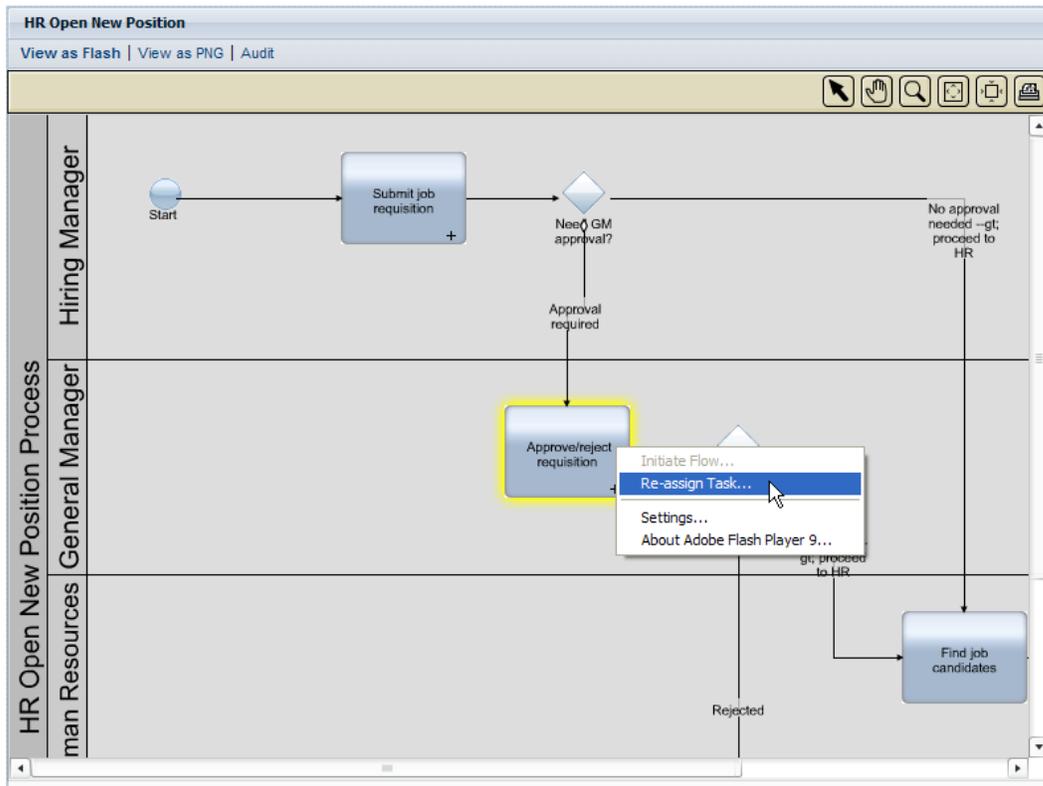
Lombardi Process Portal では、プロセス・インスタンス・ダイアグラムの「Flash」ビューから、タスクをユーザーおよびグループに割り当てることもできます。この手順を以下に示します。

1. 「My Tasks」 > 「Inbox」 から、タスクの名前をクリックします。
2. プロセス・インスタンスの詳細ページから、以下の図に示すように、ツールバーの「Show Process Instance Diagram」アイコンをクリックします。



プロセス・ダイアグラムが新しいウィンドウで開きます。

3. ウィンドウの上部の「View as Flash」をクリックします。
4. 以下の図に示すように、プロセス・ダイアグラムで現在のアクティビティ (黄色で強調表示されます) を右クリックしてから「Reassign Task」を選択します。



5. ポップアップ・メニューから、以下のいずれかのオプションを選択します。

Reassign Task Back to Group	タスクの以前の割り当て先であったグループに、そのタスクを割り当てます。
Reassign Task to a User or Group	タスクを割り当てるユーザーまたはグループの名前を指定してから「Submit」をクリックします。



プロセス・インスタンス・ダイアグラムの表示の詳細については、[プロセスの進行状況の表示](#)を参照してください。

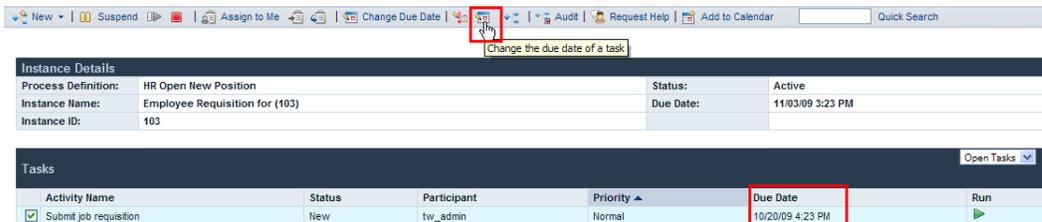
タスクの期限の変更

タスクの期限は、タスクを割り当てられているユーザーまたはグループがそのタスクを完了しなければならない期限となる日時を指定します。各タスクの初期の期限は、ビジネス・プロセス定義によって決まります。必要に応じてタスクの期限を変更することで、プロセス・インスタンスの完了に必要なすべてのタスクが、指定された時間フレーム内に確実に実行されるようになります。



タスクの期限を変更するには、[Process Portal 機能へのアクセスの制限](#)の説明にあるようなアクセス権が必要です。プロセス・インスタンス内のタスクの期限を変更しても、プロセス・インスタンス全体の期限およびその他のタスクの期限には影響しません。タスクの期限を変更する場合、他の残りのタスクまたはプロセス・インスタンスの期限の変更も必要になることがあります。詳細については、[プロセス・インスタンスの期限の変更](#)を参照してください。

1. 「**My Tasks**」 > 「**Inbox**」から、タスクの名前をクリックします。
2. プロセス・インスタンスの詳細ページの「タスク」セクションで、期限を変更するタスクの横のチェック・ボックスを選択します。
3. 以下の図に示すように、ツールバーの「**Change Task Due Date**」アイコンをクリックします。



4. 「Choose a New Due Date and Time」ダイアログ・ボックスから、新しい期限となる日時を選択して「**OK**」をクリックします。Lombardi Authoring Environment で BPD およびそのアクティビターに設定されている作業スケジュールと矛盾が生じる場合であっても、日時の変更を許可する場合は、「**Allow changes even if they conflict with the assigned users Work Schedules**」オプションを選択します (詳細については、「*Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド*」の『*BPD の作業スケジュールの設定*』を参照)。

プロセス・インスタンスの詳細ページの「タスク」セクション内の「Due Date」フィールドに、新しい期限の日時が表示されます。

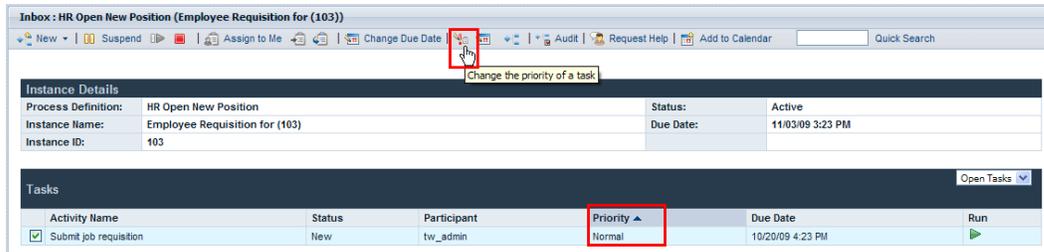
タスクの優先順位の変更

必要に応じて、タスクの優先順位を変更して、タスクのエスカレートまたは逆エスカレートを行うことができます。これは特に、プロセス参加者のグループに多数のオープン・タスクがある場合に、どのタスクを最初に行うかの決定を参加者に案内する必要があるときに便利です。例えば、複数の問題を抱えるお客様からのチケットに対する応答では、お客様サポート管理者は特定のタスクの優先順位をエスカレートして、お客様にとって最も重大な問題に可能な限り迅速に対処できます。



タスクの優先順位を変更するには、[Process Portal 機能へのアクセスの制限](#)の説明にあるようなアクセス権が必要です。タスクの優先順位の変更時に、そのタスクの期限も変更して新しい優先順位を反映させることが必要になる場合があります。詳細については、[タスクの期限の変更](#)を参照してください。

1. 「My Tasks」 > 「Inbox」 から、タスクの名前をクリックします。
2. プロセス・インスタンスの詳細ページの「タスク」セクションで、優先順位を変更するタスクの横のチェック・ボックスを選択します。
3. 以下の図に示すように、ツールバーの「Change Priority」アイコンをクリックします。



4. 「Choose a New Priority」ダイアログ・ボックスで、ドロップダウン・リストから新しい優先順位 (「highest」、「high」、「normal」、「low」、または「lowest」) を選択して「OK」をクリックします。

プロセス・インスタンスの詳細ページの「タスク」セクションの「Priority」フィールド、および割り当てられたすべての参加者の受信ボックスに、新しい優先順位が表示されます。

タスク実行履歴の表示

タスクの履歴を表示するには、「My Tasks」 > 「History」を選択します。Process Portal に、以前に受信ボックスにあったが、非アクティブになったタスクのリストが表示されます。各タスクを生成したプロセス・インスタンスに応じて、タスクが表示されます。プロセス・インスタンスの名前をクリックすると、プロセス・インスタンスの詳細ページを表示できます。履歴にリストされるタスクにはアクションが不要であるため、以下の図に示すように、各タスクの「Run」アイコン (緑色の三角形) は使用不可です。

Instance Name	Process Definition	Instance Status	Task Subject	Task Priority	Task Due Date	Run
<input type="checkbox"/> Employee Requisition for Scott(3)	HR Open New Position	Completed	Task: Submit requisition	Normal	10/13/09 10:48 PM	
<input type="checkbox"/> Employee Requisition for Scott(4)	HR Open New Position	Completed	Task: Submit requisition	Normal	10/13/09 11:08 PM	
<input type="checkbox"/> Employee Requisition for Scott(5)	HR Open New Position	Active	Task: Submit requisition	Normal	10/13/09 11:37 PM	
<input type="checkbox"/> Employee Requisition for bob(6)	HR Open New Position	Active	Task: Submit requisition	Normal	10/13/09 11:37 PM	
<input type="checkbox"/> Employee Requisition for Scott(8)	HR Open New Position	Active	Task: Submit requisition	Normal	10/13/09 11:37 PM	
<input type="checkbox"/> ReportBPD:153	ReportBPD with Track	Completed	Task: Enter data	Normal	10/20/09 8:32 PM	
<input type="checkbox"/> ReportBPD:154	ReportBPD with Track	Completed	Task: Enter data	Normal	10/20/09 8:35 PM	
<input type="checkbox"/> ReportBPD:155	ReportBPD with Track	Completed	Task: Enter data	Normal	10/20/09 8:36 PM	
<input type="checkbox"/> ReportBPD:156	ReportBPD with Track	Completed	Task: Enter data	Normal	10/20/09 8:36 PM	
<input type="checkbox"/> ReportBPD:157	ReportBPD with Track	Completed	Task: Enter data	Normal	10/20/09 8:37 PM	

以下の表では、履歴で確認できるプロセスの各種状況について説明します。

プロセス・インスタンスの状況	説明
Completed	プロセス・インスタンスに関連するすべてのタスクが完了しており、プロセス参加者は追加アクションを行う必要はありません。

タスクの管理

プロセス・インスタンスの状況	説明
Active	プロセス・インスタンスは現在進行中で、オープン・タスクを含みます。履歴には非アクティブのタスクのみが表示されます。受信ボックスと履歴の両方を調べて、アクティブ・プロセス・インスタンスに関連付けられたすべてのタスクを必ず把握するようにしてください。アクティブ・プロセス・インスタンスに関連付けられたタスクを既に完了しているが、割り当てられた追加タスクを完了する必要がある場合、処理中のタスクは受信ボックスに表示され、完了済みのタスクは履歴に表示されます。
Terminated	プロセス・インスタンスおよびその関連タスクが永続的に終了しています。詳細については、 プロセス・インスタンスの終了 を参照してください。
Failed	ビジネス・プロセス定義 (BPD) の実装またはその基盤となるサービスに問題があり、プロセス・インスタンスが失敗している可能性があります。このため、関連タスクは非アクティブになっています。

タスクの実行

以下のセクションでは、IBM Websphere Lombardi Edition の Process Portal でタスクを実行する方法について説明します。

Lombardi Process Portal からタスクを実行するには、以下の条件を満たす必要があります。

- ビジネス・プロセス定義 (BPD) のアクティビティーに割り当てられた参加者グループのメンバーである必要があります。詳細については、[プロセスの構成](#)を参照してください。
- Lombardi Process Portal にログインしてください。詳細については、[Lombardi Process Portal の始動](#)を参照してください。
- 実行中のプロセス・インスタンスの少なくとも 1 つのタスクが、ユーザーに割り当てられている必要があります。詳細については、[タスクの割り当て](#)を参照してください。

タスクの実行の詳細については、以下のトピックを参照してください。

参照する操作方法	参照トピック
Process Portal の受信ボックスからプロセス・インスタンスのタスクを開始します。	受信ボックスからのタスクの実行
プロセス・インスタンスの詳細ページでタスクを表示しているときに、プロセス・インスタンスのタスクを開始します。	プロセス・インスタンスの詳細ページからのタスクの実行
1 つの Coach または一連の Coach に必要な情報を提供してタスクを完了します。	Coach の処理
他のプロセス参加者と情報を交換して、割り当てられたタスクを完了します。	タスクのコラボレーション

受信ボックスからのタスクの実行

受信ボックスから、ユーザーまたはそのユーザーがメンバーとして所属する参加者グループに割り当てられているタスクを実行できます。

1. 「My Tasks」 > 「Inbox」を選択します。受信ボックスに、各タスクを生成したプロセス・インスタンスに応じて、タスクが表示されます。
2. 開始するタスクの「Run」アイコン (緑色の三角形) をクリックします。タスクにより Coach が生成され、これを埋めるとタスクを完了できます。詳細については、[Coach の処理](#)を参照してください。



実行したタスクを完了していない場合、そのタスクは受信ボックスに残り、「Run」アイコン (緑色の三角形) はそのタスクが完了していないことを示します。ユーザーがメンバーとして所属するグループに現在割り当てられているタスクを実行すると、そのタスクは自動的にそのユーザーに割り当てられます。

プロセス・インスタンスの詳細ページからのタスクの実行

タスクを実行する前に、タスクの追加詳細情報を表示することができます。プロセス・インスタンスの詳細ページでタスクを表示しているときに、そのプロセス・インスタンスのタスクを開始できます。

1. 「My Tasks」 > 「Inbox」を選択します。受信ボックスに、各タスクを生成したプロセス・インスタンスに応じて、タスクが表示されます。

2. 開始するタスクの名前をクリックします。
3. プロセス・インスタンスの詳細ページの「タスク」セクションで、アクティビティー名をクリックしてタスクの追加詳細情報を表示します。

準備が完了したら、「Run」アイコン (緑色の三角形) をクリックしてそのタスクを開始します。タスクにより Coach が生成され、これを埋めるとタスクを完了できます。詳細については、[Coach の処理](#)を参照してください。

Instance Details			
Process Definition:	HR Open New Position	Status:	Active
Instance Name:	Employee Requisition for Scott(8)	Due Date:	10/27/09 9:37 PM
Instance ID:	8		

Task Details			
Participant	GeneralManagers	Received Date:	10/13/09 10:39 PM
Status:	Received	Date Read:	
Due Date:	10/13/09 11:39 PM	Closed By:	
Priority:	Normal	Closed Date:	
Activity Name:	Approve/reject requisition	Run Task:	
Subject:	Step: Approve/reject requisition		



実行したタスクを完了していない場合、そのタスクはプロセス・インスタンスの詳細ページの「タスク」セクションに残り、「Run」アイコン (緑色の三角形) はそのタスクが完了していないことを示します。ユーザーがメンバーとして所属するグループに現在割り当てられているタスクを実行すると、そのタスクは自動的にそのユーザーに割り当てられます。

Coach の処理

Coach は Web ベースのインターフェースであり、ここでプロセス参加者は各タスクを完了するために必要な作業を行います。Coach には、タスクやプロセスに関する情報およびドロップダウン・リスト、エディット・ボックス、チェック・ボックス、ラジオ・ボタンなど、ユーザーがプロセスにデータを入力する各種コントロールが表示されます。プロセス・インスタンスのタスクの Coach は、ビジネス・プロセス定義 (BPD) のアクティビティーの基盤となるサービスによって生成されます。詳細については、「*Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド*」の『*Coach のビルド*』を参照してください。

Lombardi Process Portal でタスクを実行すると、新しいウィンドウにそのタスクの Coach が開きます。各タスクごとに、1 つまたは一連の複数の Coach への入力が必要される場合があります。必要な情報を埋めて Coach を完了してから情報を送信します。

以下の例では、タスクで一連の複数の Coach が生成され、そこで採用マネージャーが職の請求情報を作成します。

1. 採用マネージャーは、請求情報を埋めてから「次へ」ボタンをクリックします。

Create Job Requisition	
Job Requisition Information	
Requisition number: 001	Date: 10-13-2009
Hiring manager: Scott	Department: Finance
Employment status: Full time	Number of employees needed: 1
Location: Boston	Job title: Accountant
Position type: New	<input type="button" value="Next >>"/>

2. 採用マネージャーは、Coach の情報をレビューしてから「Submit」ボタンをクリックしてタスクを完了します。

タスクを完了すると、そのタスクは受信ボックスから履歴に移動します。詳細については、[タスク実行履歴の表示](#)を参照してください。同じプロセス・インスタンスで別のタスクを生成することや、プロセス・インスタンスを全体的な進行状況に応じて完了することができます。

タスクのコラボレーション

プロセス参加者は、確実にタスクを予定どおりに完了してプロセス・インスタンスの目標を達成するために、タスクのコラボレーションを行うことができます。以下のセクションでは、他のプロセス参加者へのヘルプ要求、他のプロセス参加者からのヘルプ要求の表示、プロセス・インスタンスへのコメントの追加、およびタスク関連アラートの生成と表示を行う方法について説明します。

ヘルプ要求の作成

プロセス参加者は、相互にヘルプ要求を送信することで、プロセス・インスタンスおよびその関連タスクでコラボレーションを行うことができます。例えば、特定のタスクについて知らない場合、またはそのタスクを完了できない場合、他のプロセス参加者にヘルプ要求を行うことができます。他のプロセス参加者からヘルプ要求を受信した場合、そのヘルプ要求に対して応答または無視できます。



ヘルプ要求を作成するには、[Process Portal 機能へのアクセスの制限](#)の説明にあるようなアクセス権が必要です。

1. 「**My Tasks**」 > 「**Inbox**」から、ヘルプ要求を行うプロセス・インスタンスの名前をクリックします。
2. プロセス・インスタンスの詳細ページから、以下の図に示すように、ツールバーの「**Request Help**」アイコンをクリックします。



3. 「Add Help Request」ダイアログ・ボックスの「**To**」フィールドに、ヘルプ要求を受信する各 Lombardi ユーザー名を入力します。このヘルプ要求にコメントを追加して「**保存**」をクリックします。



ヘルプ要求をグループに送信する場合、`ROLE:<group name>` を「**To**」フィールドに入力します。この `<group name>` には、`tw_authors` などの Lombardi セキュリティー・グループ名を指定します。指定したグループの全メンバーにヘルプ要求が送信されます。

4. ヘルプ要求は、[ヘルプ要求の表示](#)に説明されているように、プロセス・インスタンスの詳細ページの「**Collaboration**」セクションに通知されます。

ヘルプ要求の表示

他のプロセス参加者からヘルプ要求を受信した場合、そのヘルプ要求に対して応答または無視できます。



ヘルプ要求に回答するには、[Process Portal 機能へのアクセスの制限](#)の説明にあるようなアクセス権が必要です。

1. 「**My Tasks**」 > 「**Help Requests**」から、表示するヘルプ要求の対象となるプロセス・インスタンスまたはタスクの名前をクリックします。
2. プロセス・インスタンスの詳細ページの「**Collaboration**」セクションに、送信および受信したヘルプ要求が、日付、送信者、受信者、ヘルプ・メッセージとともにリストされます。ヘルプ要求をクリックすると、その詳細が表示されます。
3. 「View Help Request」ダイアログ・ボックスで、「**Reply**」をクリックしてヘルプ要求に回答するか、または「**Ignore**」をクリックしてヘルプ要求を無視します。回答する場合は、「Reply to Help Request」ダイアログ・ボックスにメッセージを追加して「**保存**」をクリックします。
4. プロセス・インスタンスの詳細ページの「**Collaboration**」セクションに、ヘルプ要求への回答が通知されます。このセクションでヘルプ要求の送信者は回答を確認できます。

プロセス・インスタンスへのコメントの追加

プロセス参加者は、プロセス・インスタンスにコメントを追加することで、プロセス・インスタンスおよびその関連タスクでコラボレーションを行うことができます。例えば、コメントを使用して、状況の更新を他のプロセス参加者に伝えることができます。ヘルプ要求とは異なり、コメントは一般的に情報を提供するものであり、回答を必要としません。



プロセス・インスタンスにコメントを追加するには、[Process Portal 機能へのアクセスの制限](#)の説明にあるようなアクセス権が必要です。

1. 「**My Tasks**」 > 「**Inbox**」から、コメントを追加するプロセス・インスタンスの名前をクリックします。
2. プロセス・インスタンスの詳細ページから、以下の図に示すように、「**Collaboration**」セクションの「**Add Comment**」ボタンをクリックします。

The screenshot shows the 'Instance Details' page for 'HR Open New Position'. The 'Collaboration' section is visible, featuring a table with columns for 'Type', 'Date', 'From', 'To', and 'Comment'. A red box highlights the 'Add Comment' button located to the right of the table.

3. 「Add Comment」ダイアログ・ボックスの「**To**」フィールドには、デフォルトで「**Everyone**」が指定されています。コメントを追加して「**保存**」をクリックします。



「**To**」フィールドには、Lombardi ユーザーおよびグループを指定することはできません。

4. プロセス・インスタンスの詳細ページの「Collaboration」セクションに、コメントが通知されます。他のすべてのプロセス参加者が、このコメントを表示できます。

アラートの生成

プロセス参加者は、タスク関連アラートを生成することで、プロセス・インスタンスおよびその関連タスクでコラボレーションを行うことができます。アラートは、基盤となるサービスに Send Alert コンポーネントが含まれるビジネス・プロセス定義 (BPD) のアクティビティに対して、プロセス参加者がタスクを実行するときに、特定のユーザーまたはグループに自動的に送信されるディレクティブです。アラートは、情報を提供し、応答が不要であるという点でコメントと似ています。

アラートの受信者、優先順位、件名、およびメッセージは、基盤となるサービスの Send Alert コンポーネントによって決まります。アラートが生成されると、アラートの受信者は、[アラートの表示](#)に説明されているように、Lombardi Process Portal でそのアラートを表示できます。

サービスの Send Alert コンポーネントの構成の詳細については、「*Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド*」の『サービス・コンポーネントについて』を参照してください。

アラートの表示

タスク関連アラートを表示するには、以下の手順を実行します。

1. 「**My Tasks**」 > 「アラート」を選択します。
2. 表示するアラートの対象となるインスタンスの名前をクリックします。

プロセス・インスタンスの詳細ページの「Task Narrative」セクションに、アラートのメッセージが表示されます。プロセス・インスタンスの詳細ページの「Collaboration」セクションに、アラートの日付、送信者、受信者、およびメッセージも表示されます。アラートを生成するタスクを開始したプロセス参加者が、そのアラートの送信者になります。

3. プロセス・インスタンスの詳細ページの「Collaboration」セクションでアラートをクリックすると、「View Alert」ダイアログ・ボックスにアラートの詳細が表示されます。

文書の処理

プロセス参加者は、場合によって、タスクの完了に必要な追加情報が必要になったり、プロセスに固有の情報を提供することが必要になったりします。文書を使用すると、完了するタスクに関する重要な情報を提供できます。IBM Websphere Lombardi Edition の Process Portal では、ユーザーがファイルや URLなどを文書としてプロセス・インスタンスに添付し、必要に応じて、この文書を管理してプロセスを完了できます。例えば、見込みドナーに送信する権限付与の提案書を作成する場合、文書のテンプレートから開始して、その提案書のレビューおよび改訂のたびに、複数のバージョンの文書をプロセス・インスタンスに添付できます。文書の改訂のたびに、新しいバージョンの文書をアップロードして、その文書の改訂履歴を表示できます。

タスクを実行するには、以下の条件を満たす必要があります。

- ビジネス・プロセス定義 (BPD) のアクティビティに割り当てられた参加者グループのメンバーであることが必要です。詳細については、[プロセスの構成](#)を参照してください。
- Lombardi Process Portal にログインしてください。詳細については、[Lombardi Process Portal の始動](#)を参照してください。
- ユーザーが参加者である、BPD の少なくとも 1 つのインスタンスを実行している必要があります。詳細については、[プロセスの開始および管理](#)を参照してください。

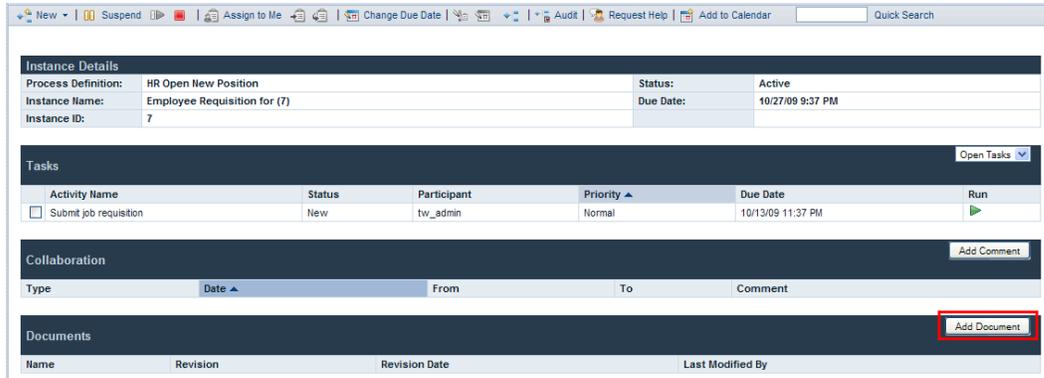
文書の処理の詳細については、以下のトピックを参照してください。

参照する操作方法	参照トピック
プロセス・インスタンスの詳細ページから、文書をプロセス・インスタンスにアップロードします。	プロセス・インスタンスへの文書の添付
プロセス参加者がプロセス・インスタンスに添付した文書を表示します。	プロセス・インスタンスに添付されている文書の表示
既存の文書の新しいバージョンをプロセス・インスタンスにアップロードし、その文書の改訂履歴を表示します。	プロセス・インスタンスに添付されている文書の改訂
タスクの完了時に Coach から文書をアップロードおよび管理します。	Coach への文書の添付

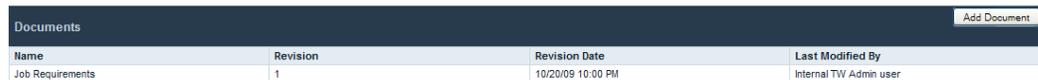
プロセス・インスタンスへの文書の添付

プロセス・インスタンスに文書を添付するには、以下の手順を実行します。

1. 「**My Tasks**」 > 「**Inbox**」から、プロセス・インスタンスの名前をクリックします。
2. 以下の図に示すように、プロセス・インスタンスの詳細ページの「Documents」セクションで、「**Add Document**」ボタンをクリックします。



- 「Add Document」ダイアログ・ボックスの「**Document Name**」フィールドに、文書の名前を指定します。「**Document Type**」ドロップダウン・リストから、「ファイル」または「URL」を選択します。
- ファイルを追加する場合、「**Browse**」ボタンをクリックしてファイルを選択します。URL (http://www.myserver.com など) を追加する場合は、その URL を指定します。「**Submit**」をクリックして、文書をアップロードします。
- アップロードした文書は、プロセス・インスタンスの詳細ページの「Documents」セクションに通知されます。「Add Document」ダイアログ・ボックスの「Document Name」フィールドで指定した名前は、「名前」列に表示されます。



プロセス・インスタンスに添付されている文書の表示

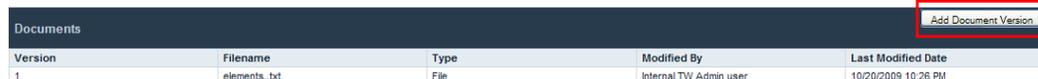
プロセス・インスタンスに添付されている文書を表示するには、以下の手順を実行します。

- 「**My Tasks**」 > 「**Inbox**」から、プロセス・インスタンスの名前をクリックします。
- プロセス・インスタンスの詳細ページの「Documents」セクションで、表示する文書の名前をクリックします。
- ファイル名または URL をクリックして文書を開きます。

プロセス・インスタンスに添付されている文書の改訂

既存の文書の新しいバージョンをプロセス・インスタンスに追加するには、以下の手順を実行します。

- 「**My Tasks**」 > 「**Inbox**」から、プロセス・インスタンスの名前をクリックします。
- プロセス・インスタンスの詳細ページの「Documents」セクションで、更新する文書の名前をクリックします。
- 以下の図に示すように、「**Add Document Version**」ボタンをクリックします。



- 「Add Document Version」ダイアログ・ボックスで、文書タイプおよびファイル名または URL を指定し、「Submit」をクリックして文書をアップロードします。
- 文書のリストが最新表示になり、新しいバージョンの文書、バージョン番号、ファイル名、文書タイプ、文書を最後に変更したユーザー、および最終変更日時が表示されます。



新しいバージョンの文書をプロセス・インスタンスに追加する場合、ファイル名および文書タイプは、新旧のバージョンで一致させる必要はありません。

Documents					Add Document Version
Version	Filename	Type	Modified By	Last Modified Date	
2	elements.txt	File	Internal TW Admin user	10/20/2009 10:27 PM	
1	elements.txt	File	Internal TW Admin user	10/20/2009 10:26 PM	

Coach への文書の添付

一部の Lombardi Coach では、プロセス・インスタンスのタスクの完了時に、文書をアップロードおよび表示できます。



以下のタスクを実行する前に、Lombardi Authoring Environment の開発者は、Coach の文書のアップロード機能を有効にしておく必要があります。Coach から文書を表示およびアップロードする操作は、開発者が Coach に指定したプロパティに応じて制限される場合があります。詳細については、「Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド」の『Coach への文書の添付』を参照してください。

Coach から文書をアップロードするには、以下の手順を実行します。

- 以下の図に示すように、「Add Document」ボタンをクリックします。



- 「Title」フィールドに文書の名前を指定します。「タイプ」ドロップダウン・リストから、「ファイル」または「URL」を選択します。ファイルを追加する場合、「Browse」ボタンをクリックしてファイルを選択します。URL (http://www.myserver.com など) を追加する場合は、その URL を指定します。「OK」をクリックして、文書をアップロードします。



Coach から文書をアップロードする場合、「Title」フィールドに文書名を指定する必要があります。



既存の文書の新しいバージョンを Coach に追加するには、以下の手順を実行します。

1. 以下の図に示すように、文書の「Update」オプションをクリックします。

The screenshot shows a table titled 'Supporting Documents' with the following data:

Title/Name	File Name/URL	Revision	Revision Date	Last Modified By	
Job Requirements	elements.txt	1	2009-10-20 10:42 PM	Internal TW Admin user	Update

Below the table is an 'Add Document' button.

2. 「Browse」ボタンをクリックして、更新するファイルのバージョンを選択します。「OK」をクリックして、文書をアップロードします。

文書のリストが最新表示になり、新しいバージョン番号、文書を最後に変更したユーザー、および改訂日付が表示されます。

レポートの処理

レポートを使用すると、プロセス・インスタンスのパフォーマンスおよびそのインスタンス内のタスクを完了するプロセス参加者のパフォーマンスを分析できます。IBM Websphere Lombardi Edition の Process Portal でのレポートを使用したプロセス・パフォーマンスの分析の詳細については、以下のトピックを参照してください。

参照する操作方法	参照トピック
カスタム・レポートとカスタム・スコアボードおよび標準スコアボードを表示して、プロセス・パフォーマンスを分析します。	スコアボードの表示
パフォーマンス・データおよびレポート・データをコンマ区切り値ファイル (CSV) としてエクスポートして、外部プログラムで使用します。	レポート・データのエクスポート
「Ad-Hoc Report Wizard」を使用してビジネス変数データからカスタマイズしたレポートを作成します。	Process Portal でのアドホック・レポートの作成

スコアボードの表示

Lombardi Process Portal から、すぐに使用可能な標準スコアボードならびに Lombardi パフォーマンス・データを使用して作成したカスタム・レポートおよびカスタム・スコアボードを表示できます。

以下の方法については、「*Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド*」の『レポート作成』セクションを参照してください。

- Lombardi を構成して、Process Portal ですぐに使用可能な標準スコアボードを表示します。
- 追跡したパフォーマンス・データを使用してカスタム・レポートを作成します。

以下に、標準の Lombardi スコアボードを示します。

スコアボード	説明
My Performance	特定の Lombardi グループの Lombardi タスク、またはメンバーとして所属するすべてのグループの Lombardi タスクの現在の状況が表示されます。また、特定のビジネス・プロセスを選択して、参加するすべてのプロセスのデータを分析または表示することもできます。
My Team Performance	ユーザーがチーム管理者として指定された Lombardi グループの Lombardi タスクの現在の状況が表示されます。
Process Performance	組織の特定のプロセスのアクティブ・インスタンスの現在の状況が表示されます。「Process Performance」スコアボードに組み込む特定のプロセスは構成することができます。詳細については、「 <i>Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド</i> 」の『レポート作成』セクションを参照してください。
SLA Overview	SLA が定義されている場合、「SLA Overview」スコアボードには、特定の SLA の名前、説明、および現在の状況をリストした表が表示されます。「SLA Overview」スコアボードに組み込む特定の SLA は構成することができます。詳細については、「 <i>Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド</i> 」の『レポート作成』セクションを参照してください。



すぐに使用可能な標準スコアボードを構成し、これに目的の情報を表示して適切なユーザー・グループに公開する方法については、*Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド*」の『レポート作成』セクションの『すぐに使用可能なスコアボードの使用』を参照してください。

カスタム・スコアボードおよびカスタム・スコアボード内のレポートを表示するには、そのスコアボードが公開されている参加者グループのメンバーであることが必要です。

スコアボードを表示するには、以下の手順を実行します。

1. 「**My Scoreboards**」の下から、表示するスコアボードの名前をクリックします。



Lombardi Process Portal でスコアボードを表示するには、そのスコアボードが公開されている参加者グループのメンバーであることが必要です。

2. 標準スコアボードの場合、以下のように表示されるデータをフィルターに掛けることができます。

My Performance	所属するチーム別に結果をフィルターに掛けるには、「Team Filter」ドロップダウン・リストを使用します。プロセス別に結果をフィルターに掛けるには、「Process Filter」ドロップダウン・リストを使用します。
My Team Performance	レポートを作成するチーム別に結果をフィルターに掛けるには、「Team Filter」ドロップダウン・リストを使用します。プロセス別に結果をフィルターに掛けるには、「Process Filter」ドロップダウン・リストを使用します。
Process Performance	スコアボードではフィルターを使用できませんが、組み込まれているプロセスを構成することができます。詳細については、「 <i>Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド</i> 」の『レポート作成』セクションを参照してください。
SLA Overview	特定の時間フレームで結果をフィルターに掛けるには、スコアボードの下部にある「Time」ドロップダウン・リストを使用します。



カスタム・スコアボードのフィルター・オプションは、カスタム・レポートを作成するユーザーが指定します。詳細については、「*Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド*」の『より高度なカスタム・レポートの作成』を参照してください。

3. スコアボードの表示が完了したら、「**My Scoreboards**」の下から別のスコアボードの名前を選択するか、または Lombardi Process Portal で引き続き他のタスクを実行します。

レポート・データのエクспорт

Lombardi Process Portal では、一部のスコアボードのデータをコンマ区切りファイル (CSV) としてエクспортして、外部プログラムで使用できます。

1. 「**My Scoreboards**」の下から、データをエクспортするスコアボードの名前をクリックします。
2. 円グラフのスライスや棒グラフの列など、レポートのいずれかの要素をクリックします。選択したスコアボードでデータのエクспортが使用可能な場合、スコアボードが最新表示になり、ページの上部に「export data」アイコンが表示されます。
3. 「エクспорт」  **Export** アイコンをクリックします。
4. 「**Opening reportdata.csv**」ダイアログ・ボックスから、CSV ファイルを開くか、またはファイルを宛先に保存します。

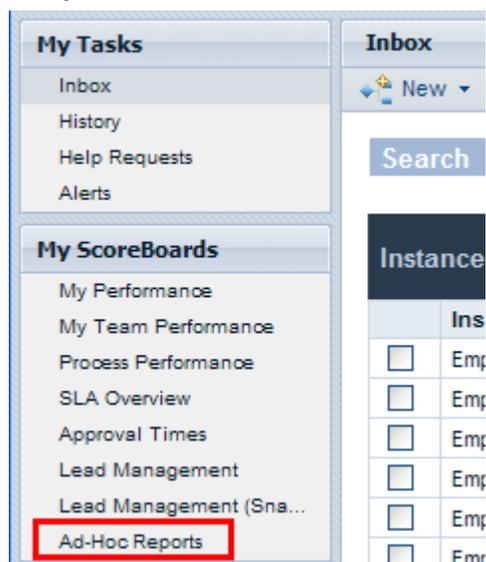
Process Portal でのアドホック・レポートの作成

Lombardi Process Portal では、プロセスのビジネス変数データを使用してカスタマイズされたレポートを作成できます。「Ad-Hoc Report」オプションを使用すると、以下の操作を実行できます。

- Process Portal からアドホック・レポートを作成して共用できます。この場合、最初に Lombardi Authoring Environment の Designer でレポートを作成する必要はありません。
- 複数の表示フォーマットで動的レポートを生成できます (円グラフや棒グラフなど)。
- ビジネス変数データをグラフの要素にバインドして、レポート表示をカスタマイズできます。
- レポート・データを Microsoft Excel ファイルにエクスポートできます。

Lombardi Process Portal で「Ad-Hoc Report」オプションを使用してレポートを作成するには、以下の手順を実行します。

1. 以下の図に示すように、「My ScoreBoards」の下にある「Ad-Hoc Reports」リンクをクリックします。

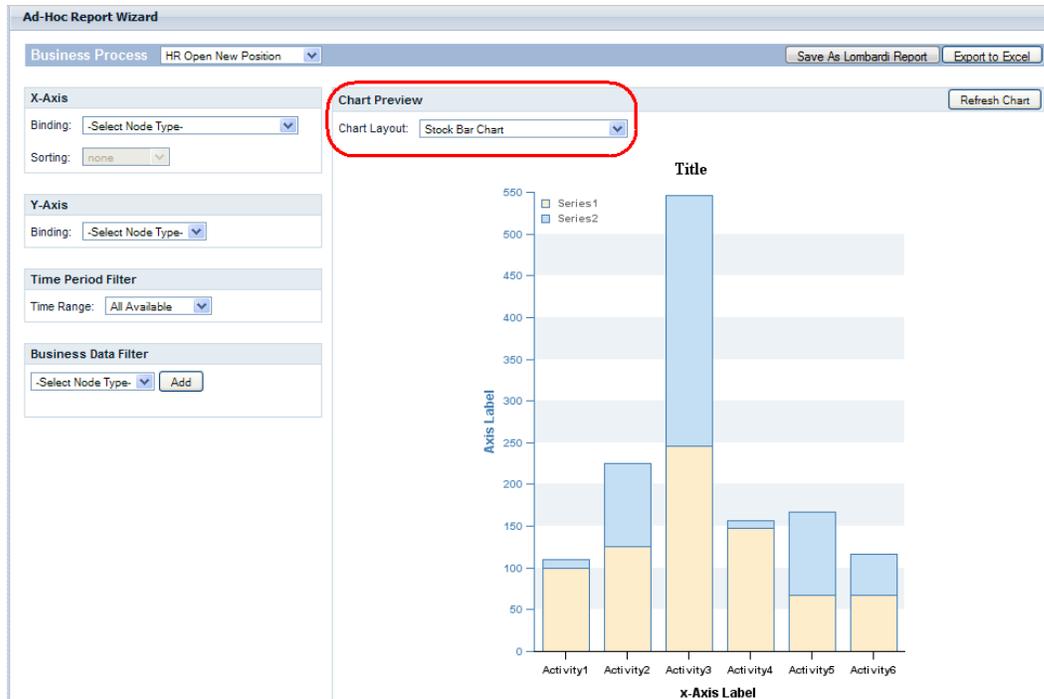


2. 以下の図に示すように、「Ad-Hoc Reports」ページで「New Ad-Hoc Report」ボタンをクリックします。



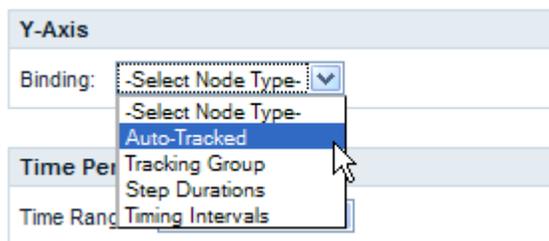
「New Ad-Hoc Report」ボタンが使用できるのは、BPD の公開先である 1 つ以上の参加者グループのメンバーである場合のみです (「Expose business data」設定)。詳細については、「Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド」またはオンライン・ヘルプの『BPD の公開』を参照してください。

3. 以下の図に示すように、ページ上部のドロップダウン・リストから、レポートのデータをプルするビジネス・プロセス定義 (BPD) の名前を選択します。
4. 「Chart Preview」の下のドロップダウン・リストから「Chart Layout」を選択します (棒グラフ、円グラフなど)。



- レポートのグラフに表示する変数を指定するには、選択したグラフに変数をバインドする必要があります。

例えば、変数を軸にバインドする場合は、以下の図に示すように、ドロップダウン・リストから変数名を選択するだけです。以下の図に示すように、「バインディング」タイプ（「Auto-Tracked」、「Tracking Group」、「Step Durations」、「Timing Intervals」など）を選択すると、別のドロップダウン・リストに選択したバインディング・タイプに関連付けられた変数が表示されます。



ドロップダウン・リストには、BPDでトラッキングが有効である変数のみが表示されます。例えば、「バインディング」に「Auto-Tracked」を選択したときに Lombardi Authoring Environment でトラッキング対象の変数が存在しない場合、Process Portal のドロップダウン・リストには「No tracked items」と表示されます。また、一部のバインディングは、Lombardi Authoring Environment で選択した BPD 用に構成されて、Performance Data Warehouse に追跡されたパフォーマンス・データが収集されるまで、Process Portal ではオプションとして表示されません。データのトラッキングおよびレポートの構成の詳細については、「Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド」またはオンライン・ヘルプの『レポート作成』セクションを参照してください。

- 以下の図に示すように、棒グラフの X 軸と Y 軸にバインドする変数を選択します。

X-Axis

Binding:

Sorting:

Y-Axis

Binding:

7. 「Refresh Chart」ボタンをクリックして、「Chart Preview」にデータを表示します。

Process Portal でのアドホック・レポートの保存

Lombardi Process Portal でアドホック・レポートを保存すると、レポートを作成したユーザーおよび他のユーザーが、いつでもそのレポートを表示できます。



Lombardi Process Portal でアドホック・レポートを保存した場合、その保存したレポートを変更することはできません。レポートの保存後に Process Portal でそのレポートの設定を編集することができないため、レポートが正しく構成されていることを確認してから保存してください。

アドホック・レポートを保存するには、以下の手順を実行します。

1. 以下の図に示すように、「Save As Lombardi Report」ボタンをクリックします。

2. そのメンバーが保存するレポートを表示できる Lombardi セキュリティ・グループを選択し、「Saved Report Details」フィールドにレポートの名前を入力してから、以下の図に示すように、「Save Report」ボタンをクリックします。

3. 保存したレポートを表示するには、「My Scoreboards」の下の「Ad-Hoc Reports」をクリックし、以下の図に示すように「Saved Ad-Hoc Reports」ドロップダウン・リストからレポート名を選択します。



レポートを削除する場合は、「Delete Report」ボタンをクリックします。

アドホック・レポートの拡張フィルター

アドホック・レポートのグラフに表示するビジネス変数を選択する場合、以下のフィルターをカスタマイズしてレポート・データを詳細化できます。

- X 軸のソート
- Y 軸の関数
- 「Time Period Filter」
- 「Business Data Filter」

X 軸のソート

一部のビジネス変数では、以下の図に示すように、ドロップダウン・リストから「**Sorting**」オプション（「昇順」、「降順」など）を選択して、X 軸のデータの表示方法を指定できます。

The image shows a configuration panel for the X-Axis. It has two main sections: 'X-Axis' and 'Y-Axis'. In the 'X-Axis' section, there are two dropdown menus. The first is labeled 'Binding:' and is set to 'Auto-Tracked'. The second is labeled 'customerName' and is also a dropdown menu. Below these is a 'Sorting:' dropdown menu which is currently open, showing three options: 'No order', 'Ascending Order', and 'Descending Order'. The 'Y-Axis' section is partially visible at the bottom of the panel.

Y 軸の関数

一部のビジネス変数では、以下の図に示すように、ドロップダウン・リストから「**Function**」オプションを選択して、Y 軸のデータの表示方法を指定できます。

- 「**COUNT**」: バインド済み変数の出現回数を返します。
- 「**SUM**」: バインド済み変数の合計出現回数を返します。
- 「**AVG**」: バインド済み変数の平均出現回数を返します。
- 「**MIN**」: バインド済み変数の最小出現回数を返します。
- 「**MAX**」: バインド済み変数の最大出現回数を返します。



「Step Durations」および「Timing Intervals」の場合、オプションでミリ秒から秒、分、時、または日に変換することもできます。

Y-Axis

Binding: Auto-Tracked Untitled1

Function: COUNT (#)

Time Period

Time Range

Time Period Filter

以下の図に示すように、「Time Range」ドロップダウン・リストから、レポートのグラフにデータを表示する適切な期間（「Last Year」、「Current Year」、「Last Quarter」、「Current Quarter」など）を選択します。特定の開始日と終了日が指定されたカスタム期間を使用することもできます。「Time Range」ドロップダウン・リストから「Custom Period」を選択すると、「Start Date」および「End Date」フィールドが表示されます。これらのフィールドはデフォルトでは非表示です。これらのフィールドに開始日と終了日を直接入力するか、またはカレンダー・アイコンをクリックして日付を選択することができます。

Time Period Filter

Time Range: Custom Period

Start Date:

End Date:

Business Data

-Select node

Business Data Filter

「Business Data Filter」を使用すると、以下の図に示すように、指定値に関連した条件ステートメント（等しい、より大きい、以上、より小さい、以下など）を提供して、選択したビジネス変数のデータをさらに詳細なフィルターに掛けることができます。「追加」ボタンをクリックして、レポートの条件ステートメントをビルドします。

Business Data Filter

Auto-Tracked balance Add

balance >= 11

balance =

=

<=

>=

>

<

<=

>

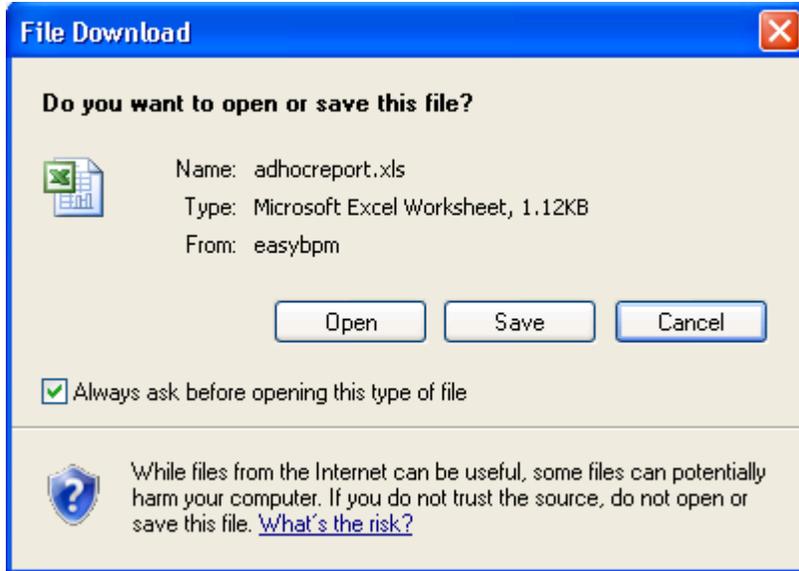
アドホック・レポートの Excel ファイルへのエクスポート

Lombardi Process Portal のアドホック・レポートのデータを Microsoft Excel (.xls) ファイルにエクスポートするには、以下の手順を実行します。

1. 以下の図に示すように、「**Export to Excel**」ボタンをクリックします。



2. 以下の図に示すように、Excel ファイルを開くか保存するかを選択します。



有効な検索の実行

IBM Websphere Lombardi Edition の Process Portal では、複数のタイプの検索を作成して保存できます。例えば、特定のグループのメンバーに割り当てられたアクティブ・タスクを表示する検索を作成して保存できます。また、高速検索を実行して、プロセス・インスタンスを名前で検索することもできます。

Lombardi Process Portal の検索機能の使用については、以下のトピックを参照してください。

参照する操作方法	参照トピック
アクティブおよび非アクティブの両方のプロセス・インスタンスから、特定のプロセス名を検索します。	高速検索の使用
複数のプロセス全体および親プロセスとそのネストしたプロセス内から特定のビジネス・データを検索します。	ビジネス変数データの検索
カスタム検索を作成し、今後の使用のために保存します。	検索の作成および保存
保存した検索を他の Process Portal ユーザーと共有します。  検索を共有するには、Process Portal 管理者としてログインする必要があります。	保存した検索の共有
受信ボックスのプロセス・インスタンスおよびタスクをソートします。	タスクまたはインスタンス単位の検索結果の編成

高速検索の使用

Lombardi Process Portal で高速検索フィーチャーを使用するには、以下の手順を実行します。

1. 右側のページの上部にある「**Quick Search**」フィールドに検索ストリングを入力します。
2. 「**Quick Search**」リンクをクリックします。

高速検索では、入力したストリングと一致する名前のプロセス・インスタンスが検索されます。デフォルトの高速検索では、現行ユーザーに割り当てられた現在および過去のすべてのプロセス・インスタンスが検索されます。

Process Portal が最新表示になり、検索結果が表示されます。

ビジネス変数データの検索

ビジネス・アナリストまたは開発者は、Lombardi Authoring Environment の Designer でプロセス定義を作成する場合、お客様の名前、貸付金額、社員のスキル・レベルなど、そのプロセスの一部として使用する変数を定義します。ビジネス・データはプロセスの変数を実行時に明示するもの、つまり、変数の値です。例えば、プロセス・インスタンスのビジネス・データとして、500,000ドルの貸付金額が設定される場合があります。

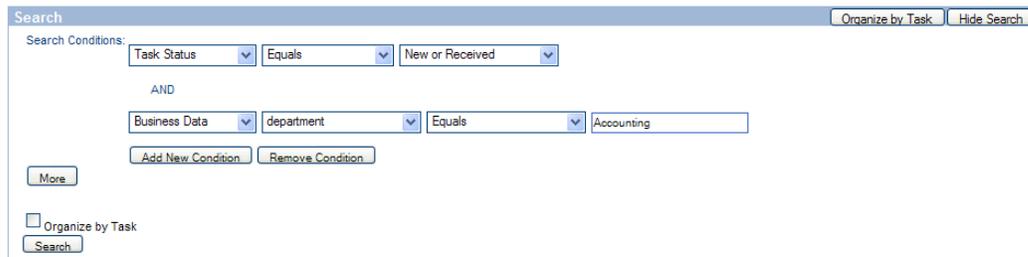


Lombardi Process Portal では、複数のプロセス全体および親プロセスとそのネストしたプロセス内から特定のビジネス・データを検索できます。ビジネス・データを検索するには、最初に対応する変数を検索に使用できるようにする必要があります（詳細については、「*Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド*」の『*変数の管理およびマッピング*』を参照）。

1. Lombardi Process Portal を始動し、「My Tasks」の下にある「Inbox」または「History」を選択して「Show Search」ボタンをクリックします。



2. 「Add New Condition」ボタンをクリックします。
3. 新規条件用に表示された最初のドロップダウン・リストから、「Business Data」を選択します。
4. 以下の図に示すように、2番目のドロップダウン・リストから使用可能ないずれかの変数を選択し、演算子を選択して値を提供します。



5. 必要に応じて、引き続き新しい条件を追加します。
6. 検索結果に表示する列およびソートする列を選択する場合は、「More」ボタンをクリックします。

左側のテキスト・ボックスには選択可能な列がリストされ、右側のテキスト・ボックスには検索結果に表示される列がリストされます。列を追加するには、追加する列の名前をクリックしてから右矢印アイコンをクリックします。表示結果から列を削除するには、列名を右側から左側に移動します。

検索結果のソート基準となる1次列と2次列を設定したり、それぞれにソート順（昇順または降順）を指定したりすることもできます。

「Items Per Page」の数値をカスタマイズする場合は、値を選択します（10、20、30、50、75、100など）。

7. 「Search」ボタンをクリックして、検索を実行します。以下の図に示すように、Process Portal に検索結果が表示されます。

Instance Name	Process Definition	Instance Due Date	Task Subject	Task Priority	Task Due Date	Run
<input type="checkbox"/> Employee Requisition for (103)	HR Open New Position	11/03/09 3:23 PM	Task: Submit requisition	Normal	10/20/09 4:23 PM	
<input type="checkbox"/> Employee Requisition for (160)	HR Open New Position	11/03/09 10:34 PM	Task: Submit requisition	Normal	10/20/09 11:34 PM	
<input type="checkbox"/> Employee Requisition for (161)	HR Open New Position	11/03/09 10:55 PM	Task: Submit requisition	Normal	10/20/09 11:55 PM	

8. 検索結果の上部にある「Show Search」ボタンをクリックして、検索条件の画面に戻ります。
9. この検索パラメーターを後から使用する場合は、検索条件の下部にある「Save Search」ボタンをクリックして検索パラメーターを保存します。
10. 表示されるテキスト・ボックスに検索の名前を入力して「OK」をクリックします。

この検索名は「**My Tasks**」の下に表示されます。いつでもこのリンクをクリックして、保存した検索にアクセスできます。

保存した検索にアクセスすると、「**Show Search**」ボタンをクリックして、検索設定を表示して変更することができます。保存した検索を削除する場合は、「**Delete Search**」ボタンをクリックします。



tw_portal_admins セキュリティー・グループのメンバーが保存した検索には、他のすべての Process Portal ユーザーがアクセスできます。それ以外の場合は、検索を使用できるのは、その検索を作成して保存したユーザーのみです。

検索の作成および保存

保存した検索は、tw_portal_admins セキュリティー・グループのメンバー間で共用できます。それ以外の場合は、検索を使用できるのは、その検索を作成して保存したユーザーのみです。

Lombardi Process Portal で検索を保存するには、以下の手順を実行します。

1. Lombardi Process Portal を始動し、「My Tasks」の下にある「**Inbox**」または「**History**」を選択して「**Show Search**」ボタンをクリックします。
2. 検索条件を設定します。「**Add New Condition**」ボタンをクリックすると、追加の検索条件を作成できます。
3. 「**More**」ボタンをクリックして、検索結果に表示する列を選択します。「**Choose Columns To Display**」の下の列名をクリックし、右矢印アイコンを使用して、列を右側のボックスに移動します。



複数の連続した列を選択するには、Shift キーを押しながら最初の列と最後の列を順番に選択します。複数の不連続の列を選択するには、Ctrl キーを押しながらそれぞれの列名をクリックします。

4. 検索結果のソート基準となる 1 次列と 2 次列を設定したり、ソート順を指定したりします。
5. 「**Items Per Page**」の数値をカスタマイズする場合は、値を選択します (10、20、30、50、75、100 など)。
6. 検索条件の入力が完了したら、「**Search**」ボタンをクリックします。Process Portal に、以下の図に示すような検索結果が表示されます。

Instance Name	Process Definition	Instance Due Date	Task Subject	Task Priority	Task Due Date	Run
<input type="checkbox"/> Employee Requisition for (103)	HR Open New Position	11/03/09 3:23 PM	Task: Submit requisition	Normal	10/20/09 4:23 PM	
<input type="checkbox"/> Employee Requisition for (160)	HR Open New Position	11/03/09 10:34 PM	Task: Submit requisition	Normal	10/20/09 11:34 PM	
<input type="checkbox"/> Employee Requisition for (161)	HR Open New Position	11/03/09 10:55 PM	Task: Submit requisition	Normal	10/20/09 11:55 PM	

7. 検索結果の上部にある「**Show Search**」ボタンをクリックして、検索条件の画面に戻ります。
8. この検索パラメーターを後から使用する場合は、検索条件の下部にある「**Save Search**」ボタンをクリックして検索パラメーターを保存します。

- 表示されるテキスト・ボックスに検索の名前を入力して「OK」をクリックします。
- この検索名は「My Tasks」の下に表示されます。いつでもこのリンクをクリックして、保存した検索にアクセスできます。

保存した検索にアクセスすると、「Show Search」ボタンをクリックして、検索設定を表示して変更することができます。保存した検索を削除する場合は、「Delete Search」ボタンをクリックします。Process Portal 管理者が保存した検索を共有する方法については、[保存した検索の共有](#)を参照してください。

保存した検索の共有

Lombardi Process Portal でカスタム検索を作成して保存したら、管理者はカスタム検索を他の Lombardi ユーザーと共有できます。これにより、管理者は特定のグループまたはユーザーにとって有用な検索を作成して共有できます。カスタム検索を Lombardi Process Portal を介して共有する場合、カスタム検索は「My Tasks」の下にリストされます。



保存した検索を共有するには、Lombardi Process Portal に `tw_portal_admin` として、または `tw_portal_admins` グループのメンバーとしてログインする必要があります。`tw_portal_admin` の詳細については、「[Lombardi 管理ガイド](#)」を参照してください。

保存した Process Portal 検索を共有するには、以下の手順を実行します。

- カスタム検索を作成して保存します。詳細については、[検索の作成および保存](#)を参照してください。
- 「My Tasks」の下の検索の名前をクリックして、保存した検索を開きます。
- 検索結果の上部にある「Show Search」ボタンをクリックします。
- 検索条件の下部にある「Share this Search」ボタンをクリックします。
- プロンプトが表示されたら「OK」をクリックして、他のすべての Lombardi Process Portal ユーザーと検索を共有します。

他のユーザーは Lombardi Process Portal にログインして、「My Tasks」の下のリンクから検索にアクセスできます。

タスクまたはインスタンス単位の検索結果の編成

タスク別に検索結果を編成するには、以下の手順を実行します。

- Lombardi Process Portal から、編成する検索結果を表示します。高速検索フィーチャーを使用するか、または保存された検索を使用して検索結果を表示します。
- 検索結果の上部にある「Organize by Task」ボタンをクリックします。Process Portal ページが最新表示になり、タスク別に編成された検索結果が表示されます。



「Organize by Task」をクリックすると、「Organize by Instance」ボタンが使用可能になります。

プロセス・インスタンス別に検索結果を編成するには、以下の手順を実行します。

1. Lombardi Process Portal から、編成する検索結果を表示します。高速検索フィーチャーを使用するか、または保存された検索を使用して検索結果を表示します。
2. 「**Organize by Instance**」ボタンをクリックします。Process Portal ページが最新表示になり、インスタンス別に編成された検索結果が表示されます。
「**Organize by Instance**」をクリックすると、「Organize by Task」ボタンが使用可能になります。

クリティカル・パス管理機能の使用

Lombardi Process Portal のクリティカル・パス分析ツールを使用すると、以下のことができます。

- 実行中のプロセス・インスタンスが完了に向けて進んでいるかどうかを判別する。
- プロセス・インスタンスが存続している任意の時点で、そのインスタンスの期限を変更する。
- プロセス・インスタンス内のアクティビティとタスクの期限を調整して、インスタンスを正しい方向に戻す。



Lombardi Process Portal でクリティカル・パス分析ツールを使用するには、「WebSphere Lombardi Edition 管理ガイド」の『クリティカル・パス管理の設定』トピックで説明されているように、指定されたユーザー・グループのメンバーである必要があります。デフォルトでは、このユーザー・グループは `tw_process_owners` です。

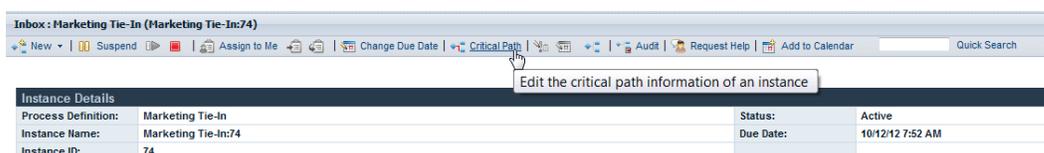
以下の表で、Lombardi Process Portal で完了できるクリティカル・パス管理タスクを説明します。

参照する操作方法	参照先
クリティカル・パス管理機能にアクセスします。	クリティカル・パス管理機能へのアクセス
実行中のプロセス・インスタンスが正しい方向に向かって進んでいるかどうかを判別します。	予測された期限の確認
クリティカル・パス予測を変更します。	クリティカル・パス予測の変更
予測に基づいてプロセス・インスタンスの期限を変更します。	プロセス・インスタンスの期限の変更
個別のタスクまたはアクティビティの優先順位、期間、期限を変更します。	アクティビティの設定の変更
プロセス・インスタンス値を一括変更します。	プロセス・インスタンス値の一括変更
プロセス・インスタンス設定の変更を保存および復帰します。	プロセス・インスタンス値の変更の保存および復帰
クリティカル・パスのサンプル・プロセスを実行および使用します。	クリティカル・パス・サンプル・プロセスの実行
クリティカル・パス・データを Excel にエクスポートします。	クリティカル・パス・データの Excel へのエクスポート

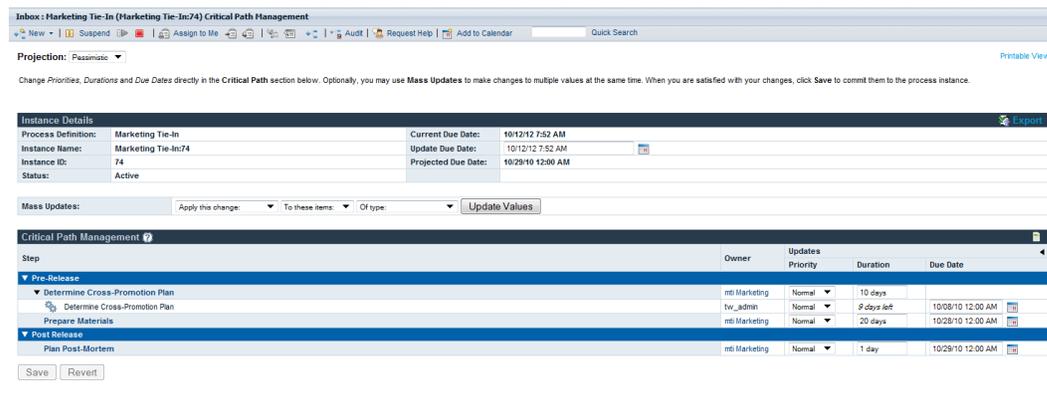
クリティカル・パス管理機能へのアクセス

プロセス・インスタンス用のクリティカル・パス分析ツールにアクセスするには、以下の手順を実行します。

1. 「My Tasks」 > 「Inbox」から、分析するプロセス・インスタンスの名前をクリックします。
2. プロセス・インスタンスの詳細ページから、以下の図に示すように、ツールバーの「Critical Path」をクリックします。



Lombardi Process Portal によって、以下の図に示すように、選択したインスタンスのクリティカル・パス管理の情報とオプションが表示されます。



予測された期限の確認

実行中のプロセス・インスタンスのクリティカル・パス管理情報を表示すると、インターフェースの「Instance Details」セクションに表示される、予測された期限を見て確認できます。「Projected Due Date」フィールドに表示された日付が「Current Due Date」フィールドに表示された日付よりも後の場合は、現在のインスタンスは、現在の予測に従ったスケジュール通りに完了しません。インスタンスのデフォルトの予測は、「Pessimistic」です。使用可能な予測のタイプおよびそれらのタイプを使用して分析を詳細化する方法について詳しくは、[クリティカル・パス予測の変更](#)を参照してください。

クリティカル・パス予測の変更

プロセスを完了するために使用できるいくつかの経路つまりパスがあります。また、各パスの完了に必要な時間は、ユーザーがパスに沿って各タスクを実行するのにかかる時間によって異なります。通常、クリティカル・パスが完了するのに最も時間のかかる経路です。各パスの完了に必要な時間は、パス内のタスクの期間と期限から計算されます。

Lombardi Process Portal のクリティカル・パス管理機能では、以下の予測を使用して、プロセス内のさまざまなパスを特定し、プロセスを完了するのにかかる時間を分析することができます。現在実行中のプロセス・インスタンスの予測パスを変更するには、「Projection」ドロップダウン・リストから以下のオプションのいずれかを選択します。



ビジネス・プロセス定義 (BPD) に決定が何も含まれない場合、プロセスが通るパスは1つのみで、3つの予測タイプはすべて同じになります。BPD に1つ以上の決定が含まれる場合は、プロセスが通る複数のパスを計算することが可能です。

予測パス	説明	計算に使用するデータ
Optimistic	1つ以上のパスをBPDに対して計算できる場合に、実行にかかる時間が最短のパスが楽観的パスです。	最短パスは、保留中の各アクティビティの期間と期限を使用して計算されます。
Pessimistic	1つ以上のパスをBPDに対して計算できる場合に、ループを除いた実行にかかる時間が最長のパスが悲観的パスです。	最長パスは、保留中の各アクティビティの期間と期限を使用して計算されます。
Historical	1つ以上のパスをBPDに対して計算できる場合に、これは過去の実行に基づいて最も採用される可能性の高いパスです。	ヒストリカル予測を実行するには、プロセス・インスタンスの実行を開始する前に、プロセスの自動トラッキングを有効にし、トラッキング定義を Performance Data Warehouse に

予測パス	説明	計算に使用するデータ
		送信しておく必要があります。詳しくは、「Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド」の『Optimizer で使用するパフォーマンス・データのトラッキング』を参照してください。Performance Data Warehouse に現在のプロセス用のデータが存在しない場合は、ヒストリカル予測は無効です。



アクティビティーの期間と期限は、Lombardi Authoring Environment でのプロセス作成者による設定に基づきます。詳しくは、「Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド」の『クリティカル・パス分析用のプロセスの使用可能化』を参照してください。

「Projection」ドロップダウン・リストで「Historical」を選択すると、さらに「Historical Scenario」ドロップダウン・リストが右方に表示され、そこで、ヒストリカル予測の基礎として使用するシナリオを選択できます。以下の表に、デフォルトのシナリオをリストします。「Authoring Environment ユーザー・ガイド」またはオンライン・ヘルプの『ヒストリカル分析シナリオの作成』で説明されているように、他のヒストリカル分析シナリオを作成済みであるか、それらにアクセスできる場合は、それらのシナリオも選択することができます。

ヒストリカル予測	説明
This Week	今週実行されたプロセス・インスタンスのヒストリカル・データを使用して、分析が実行されます。
Last Quarter	前四半期に実行されたプロセス・インスタンスのヒストリカル・データを使用して、分析が実行されます。
All Completed	このプロセスの、これまでに完了しているすべてのインスタンスのヒストリカル・データを使用して、分析が実行されます。
All Available	このプロセスの、現在実行中および完了済みのインスタンスを含むすべてのインスタンスのヒストリカル・データを使用して、分析が実行されます。
All In-Flight	このプロセスの現在実行中インスタンスのヒストリカル・データを使用して、分析が実行されます。
This Year	今年、実行中または完了済みのすべてのプロセス・インスタンスのヒストリカル・データを使用して、分析が実行されます。
This Quarter	今四半期、実行中または完了済みのすべてのプロセス・インスタンスのヒストリカル・データを使用して、分析が実行されます。
Last Year	昨年に実行されたプロセス・インスタンスのヒストリカル・データを使用して、分析が実行されます。
Last Month	先月に実行されたプロセス・インスタンスのヒストリカル・データを使用して、分析が実行されます。
This Month	今月、実行中または完了済みのすべてのプロセス・インスタンスのヒストリカル・データを使用して、分析が実行されます。
Last Week	先週に実行されたプロセス・インスタンスのヒストリカル・データを使用して、分析が実行されます。

予測を変更すると、「Instance Details」セクションで「Projected Due Date」が変更され、予測パスがプロセス全体の期間に与える影響が表示されます。また、「Critical Path Management」セクションには、選択した予測パスに関連するマイルストーン、アクティビティー、およびタスクが表示されます。



決定または他のゲートウェイがないため可能なパスが BPD に 1 つしか存在しない場合は、「Optimistic」と「Pessimistic」の予測は同じになります。

現在の予測パスのグラフィカル表現を表示するには、以下の図に示すように、ツールバーの「**Show Process Instance Diagram**」ボタンをクリックします。



Lombardi Process Portal により、「Flash」ビューアーにプロセス・インスタンス・ダイアグラムが表示されます。実行中のプロセス・インスタンス内の現在のアクティビティーは黄色で強調表示され、予測パスのシーケンス・ラインは、現在のアクティビティーからプロセスの最後まで紫色で強調表示されます。また、「Critical Path Management」セクションでマイルストーンやアクティビティーを選択してある場合、そのマイルストーンやアクティビティーは紫色で強調表示され、太線の黒枠が付きます。

プロセス・インスタンス設定の変更

プロセス・インスタンスの予測を分析した後で、インスタンス全体の期限または個々のアクティビティーの期限など、特定の設定を変更することもできます。以下のトピックでは、Lombardi Process Portal のクリティカル・パス管理機能を使用してプロセス・インスタンスに加えることができる変更内容について説明します。

以下のタスクを開始する前に、次の作業を行ってください。

- [クリティカル・パス管理機能へのアクセス](#)の説明に従って、Lombardi Process Portal のクリティカル・パス管理インターフェースにアクセスする必要があります。
- [マイルストーン、アクティビティー、およびタスクの表示](#)に記載されている情報を確認して、加える変更によって起きるすべての保留中の更新内容を確実に表示できるようにする必要があります。

プロセス・インスタンスの期限の変更

クリティカル・パス・インターフェースの「Instance Details」セクションで、プロセス・インスタンスの期限（プロセス全体の終了日）を変更することができます。以下に手順を示します。

1. 新しい日時を「**Update Due Date**」フィールドに入力します。日時を入力するか、または「**Update Due Date**」フィールドの右にあるカレンダー・アイコンをクリックして、カレンダーから日時を選択することができます。
2. 「Critical Path Management」セクションで値に対する保留中の変更内容を確認します。
3. 「**Save**」ボタンをクリックして変更を確定します。

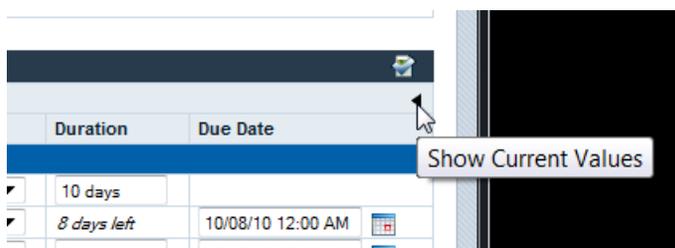
アクティビティーの設定の変更

Lombardi Process Portal のクリティカル・パス管理インターフェースで、プロセス・インスタンスのアクティビティーおよびタスクの個々の値（優先順位、期間、期限）を変更することができます。以下に手順を示します。

1. 更新したい各フィールドに、直接新しい値を入力します。「**Updates**」セクションで値（期間または期限など）を変更すると、そのフィールドに黄色の陰影が付き、変更されたが、まだ保存されていないことを示します（元に戻すことができます）。

アクティビティーまたはタスクの優先順位、期間、および期限を変更することができます。期限については、日時を入力するか、または「**Due Date**」フィールドの右にあるカレンダー・アイコンをク

リックして、カレンダーから日時を選択することができます。現行値に戻す必要がある場合は、「Critical Path Management」セクションの右上のインディケーターをクリックして、以下の図に示すように現行値を表示 (または非表示に) します。



2. 「Changes」セクションで、値に対する保留中の変更内容を確認します。アクティビティーまたはアクティブ・タスクの期間や期限を変更すると、WebSphere Lombardi Edition は、この変更によって影響を受けるすべての後続のアクティビティーおよびタスクの期間と期限を更新します。
3. 「Save」ボタンをクリックして変更を確定します。

プロセス・インスタンス値の一括変更

プロセス・インスタンスのクリティカル・パス分析を行っている際に、複数の値を同時に変更したい場合は、「Mass Updates」の設定を使用することによって素早く変更することができます。

1. 「Mass Updates」フィールドのドロップダウン・リストから設定内容を選択して、希望する変更を実施します。以下の表に、選択可能な設定内容を示します。

選択内容	必要な指定内容	更新の適用先	変更対象
Reset to Current	以下の値のいずれを現行値にリセットするか <ul style="list-style-type: none"> Duration Due Date Priority 	変更された値またはクリティカル・パス値のみ	アクティビティー、アクティブ・タスク、またはアクティビティーとアクティブ・タスクの両方
Decrease Duration by %	期間を短縮する割合数値	すべての値、変更された値、未変更の値、またはクリティカル・パス値のみ	アクティビティーとアクティブ・タスク
Decrease Amount	小さくしたい設定 (期間または期限) およびその値。指定する値に応じて、期間または期限がその日数分短縮されます。例えば、10 と指定すると、期間または期限が 10 日分短縮されます。	すべての値、変更された値、未変更の値、またはクリティカル・パス値のみ	アクティビティー、アクティブ・タスク、またはアクティビティーとアクティブ・タスクの両方
Increase Duration by %	期間を延長する割合数値	すべての値、変更された値、未変更の値、またはクリティカル・パス値のみ	アクティビティーとアクティブ・タスク
Increase Amount	大きくしたい設定 (期間または期限) およびその値。指定する値に応じて、期間または期限がその日数分延長されます。例えば、	すべての値、変更された値、未変更の値、またはクリティカル・パス値のみ	アクティビティー、アクティブ・タスク、またはアクティビティーとアクティブ・タスクの両方

選択内容	必要な指定内容	更新の適用先	変更対象
	10 と指定すると、期間または期限が 10 日分延長されます。		
Set Value	<p>変更したい設定 (期間、期限、または優先順位)、およびその設定値。</p> <p>期間および期限は、日数を指定できます。値のみを指定すると、期間または期限はその日数に設定されます。例えば、10 のみを指定すると、期間または期限は 10 日に設定されます。</p> <p>優先順位は、ドロップダウン・リストから新しい優先順位を選択できます。</p>	すべての値、変更された値、未変更の値、またはクリティカル・パス値のみ	アクティビティー、アクティブ・タスク、またはアクティビティーとアクティブ・タスクの両方

2. 「**Update Values**」ボタンをクリックします。選択された設定ごとに変更内容が適用されます。変更内容は、インターフェースの「Critical Path Management」セクションで確認することができます。
3. 「Critical Path Management」セクションで値に対する保留中の変更内容を確認します。更新された各値のフィールドに黄色の陰影が付き、変更されたが、まだ保存されていないことを示します。アクティビティーまたはタスクの期間や期限を変更すると、WebSphere Lombardi Edition は、この変更によって影響を受けるすべての後続のアクティビティーおよびタスクの期間と期限を更新します。
4. 「**Save**」をクリックして変更を確定します。

プロセス・インスタンス値の変更の保存および復帰

値 (優先順位、期間、または期限など) を変更すると、それによって影響を受ける各フィールドに黄色の陰影が付き、変更されたが、まだ保存されていないことを示します。保留中の変更が黄色で強調表示されている間は、その内容を保存するか元に戻すかを選択することができます。

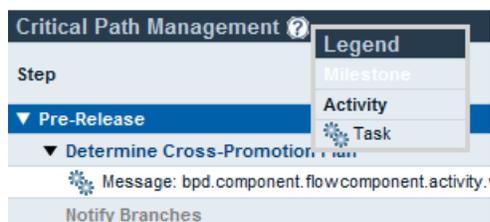


保留になっている変更がある場合、クリティカル・パス予測を変更するとその内容が元に戻ります。予測を変更する必要がある場合は、プロセス・インスタンスに変更を加える前か、または変更を保存した後に予測を変更してください。

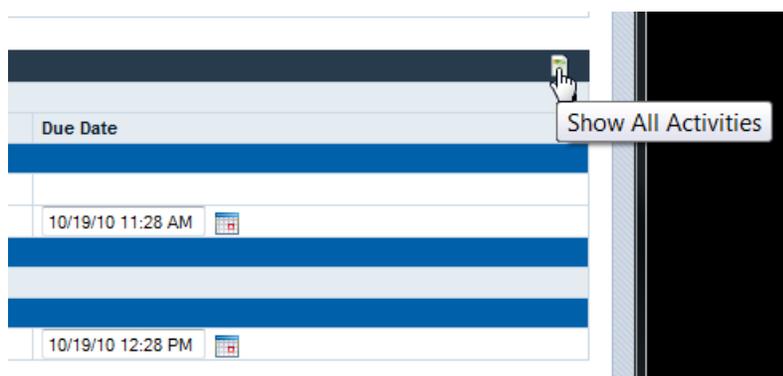
保留になっている変更内容を元に戻す (取り消す) には、「**Revert**」ボタンをクリックします。「**Save**」ボタンをクリックすると、保留中のすべての変更内容が確定され、元に戻すことができなくなります。

マイルストーン、アクティビティー、およびタスクの表示

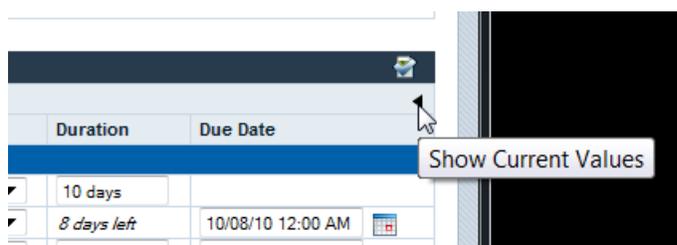
クリティカル・パス管理インターフェースには、選択されたプロセス・インスタンスのアクティビティーおよびタスクの値 (優先順位、期間、および期限) が表示されます。インターフェースの「Critical Path Management」セクションの横にある疑問符 (?) アイコンをクリックして、凡例を表示または非表示にすることができます。この凡例は、以下の図に示すように、現行インスタンスの項目を識別するための膜になります。各マイルストーンは 1 つ以上のアクティビティーを含むことがあり、それぞれのアクティビティーに、1 つ以上の生成タスクが表示されることがあります。



前の図では、アクティビティがマイルストーンごとに編成されています。それぞれのマイルストーンの名前の横にあるインディケータをクリックして、そのマイルストーンのアクティビティおよびタスクを表示または非表示にすることができます。同様に、アクティビティの名前の横にあるインディケータをクリックして、そのアクティビティによって生成されたタスクを表示または非表示にすることができます。(BPD 内のアクティビティは、その BPD の実行中インスタンスにタスクを生成します。) 重要でないアクティビティは、ぼかし表示され、デフォルトで非表示になりますが、重要なアクティビティはデフォルトで太字体で表示されます。重要でないアクティビティを表示(または非表示に)するには、以下の図に示すように「Critical Path Management」セクションの右上にあるページ・アイコンをクリックします。



「Critical Path Management」セクションで期間および期限を編集するとき、アクティビティおよびタスクの期間および期限の現行値はデフォルトで非表示になっています。値を変更してから現行値に戻す必要が生じた場合は、以下の図に示すように「Critical Path Management」セクションの右上のインディケータをクリックして、現行値を表示(または非表示に)します。



クリティカル・パス・サンプル・プロセスの実行

WebSphere Lombardi Edition には、Marketing Tie-In と呼ばれるサンプル・プロセスが含まれています。このサンプル・プロセスを使用して、クリティカル・パス分析機能を試してみることができます。Lombardi Process Portal でサンプル・プロセスを実行して、プロセス・ステップを分析する前に、以下のタスクを完了しておく必要があります。

タスク	参照先
サンプル・プロセス・アプリケーションをインポートします。 [Lombardi_home]¥imports¥critical-path-sample.twx	『Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド』の『Process Center Console からのプロセス・アプリケーションのインポートとエクスポート』
Marketing Tie-In BPD の「Expose to start」設定を使用して、Process Portal ユーザーがサンプル BPD を実行できるようにします。	『Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド』の『BPD の公開』
「Allow Critical Path Management」オプションを必ず有効にします。	『Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド』の『クリティカル・パス管理オプションの有効化』

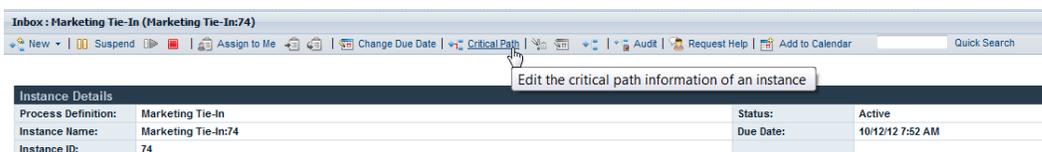
Marketing Tie-In サンプル・プロセスを実行するには、以下の手順を実行します。

1. **新規プロセスの開始**の説明に従って、Marketing Tie-In プロセスを開始します。



サンプル・プロセスを開始するには、Lombardi Authoring Environment で Marketing Tie-In プロセスが公開されたグループのメンバー（「Expose to start」設定）である必要があります。

2. Lombardi Coach が開いたときに、その Coach を終了して、Web ブラウザーをリフレッシュします。
3. 受信ボックスに Marketing Tie-In プロセスの実行中インスタンスが表示されます。インスタンス名をクリックします。
4. プロセス・インスタンスの詳細ページから、以下の図に示すように、ツールバーの「**Critical Path**」をクリックします。



5. **クリティカル・パス管理機能の使用**に記載されている各オプションを検討します。

Marketing Tie-In プロセス定義には、製品販売プランを提供するための以下の 3 つのマイルストーンが含まれます。

- Pre Release
- Release Week
- Post Release



すべてのマイルストーンを表示するには、**マイルストーン、アクティビティ、およびタスクの表示**で説明されているように、「Critical Path Management」セクションの右上にあるページ・アイコンをクリックする必要があります。

「Marketing Tie-In」プロセス・ダイアグラムには、以下のクリティカル・パスが含まれています。

- 悲観的パス。このパスは、Determine Cross-Promotion Plan アクティビティから開始して、Complex Plan? 決定ゲートウェイを通り、Prepare Materials アクティビティおよび Plan Post-Mortem アクティビティを経由します。

- 楽観的パス。このパスもまた、Determine Cross-Promotion Plan アクティビティから開始して、Complex Plan? 決定ゲートウェイを通ります。しかし、その後、このパスは、Notify Branches アクティビティを経由する異なる経路を取り、分割では、Analyze Demand Impact アクティビティ、Implement Simple National Plan アクティビティ、Roll Back Prices (Always) アクティビティが後に続き、結合では Plan Post-Mortem アクティビティになります。

予測パスを計算する場合に、期間全体 (現在のロケーションから実行中のプロセスの最後に到達するまでに必要な時間) が最も重要な因子であることに留意することが重要です。必ずしも、楽観的パスがアクティビティ数の最も少ないパスであるとは限りません。また、悲観的パスがアクティビティ数の最も多いパスであるとも限りません。

クリティカル・パス・データの Excel へのエクスポート

以下の手順で説明するように、Lombardi Process Portal のクリティカル・パス管理インターフェースから Microsoft Excel の .csv ファイルに raw クリティカル・パス・データをエクスポートすることができます。

1. 以下の図に示すように、「Instance Details」セクションの右上にある「Export」オプションをクリックします。

Instance Details		Export	
Process Definition:	Marketing Tie-In	Current Due Date:	10/12/12 7:52 AM
Instance Name:	Marketing Tie-In:74	Update Due Date:	10/12/12 7:52 AM
Instance ID:	74	Projected Due Date:	10/29/10 12:00 AM
Status:	Active		

2. Web ブラウザーからプロンプトが出されたら、.csv ファイルの名前を指定して、「Save」ボタンをクリックします。
3. Microsoft Excel で.csv ファイルを開いて、エクスポートされたデータを表示します。.csv ファイルには、インターフェースの「Instance Details」セクションと「Critical Path Management」セクションからの raw データが入っています。

Lombardi Process Portal のカスタマイズ および保守

ユーザーおよび環境の要件に合わせて、いくつかの方法で IBM Websphere Lombardi Edition の Process Portal を構成できます。Lombardi Process Portal の構成および保守の詳細については、以下のトピックを参照してください。

参照する操作方法	参照トピック
特定の Process Portal 機能へのアクセスを特定の Lombardi グループに制限します。	Process Portal 機能へのアクセスの制限
Lombardi Authoring Environment で作成されたサービスを使用してカスタム・ページを作成します。	カスタム Process Portal ページの作成
プロセス・インスタンスのトラッキング対象の変数に対する変更の履歴を表示します。	プロセス・データの監査
Process Portal の一般設定を変更します。	設定の変更
ユーザーのロケールごとに Process Portal の言語設定をカスタマイズします。	Process Portal の言語の設定
Process Portal への自動ログイン(シングル・サインオン)を使用可能にします。	Process Portal での統合認証の使用
Lombardi Process Portal のスキンをカスタマイズします。	Lombardi Process Portal のルック・アンド・フィールのカスタマイズ

Process Portal 機能へのアクセスの制限

Lombardi Process Portal の特定の機能へのアクセスを制限する場合、Lombardi 管理者がデフォルトの構成設定を編集できます。



Lombardi 構成設定を変更するときに、個々の構成ファイルのデフォルト設定を変更しないでください。代わりに、変更する構成ファイルのセクションを 100Custom.xml ファイルに追加します。Lombardi は、100Custom.xml ファイルに対する変更を元の構成にマージし、デフォルト設定を上書きします。単一ファイル (100Custom.xml) に構成の更新内容を入れることにより、Lombardi をアップグレードするときに、これらの設定を簡単に保持することができます。開発環境で Lombardi Process Center Server を処理する場合は、`[Lombardi_home]/process-center/config` からこのファイルにアクセスできます。Lombardi Process Server がインストールされたランタイム環境の場合は、`[Lombardi_home]/process-server/config` からこのファイルにアクセスできます。

99Local.xml という Lombardi 構成ファイル内の構成設定を使用すると、プロセス・インスタンスおよびタスクの期限の変更などの特定の Process Portal 機能へのアクセスを、特定の Lombardi セキュリティー・グループに制限できます。開発環境で Lombardi Process Center Server を処理する場合は、`[Lombardi_home]/process-center/config/system` からこのファイルにアクセスできます。Lombardi Process Server がインストールされたランタイム環境の場合は、`[Lombardi_home]/process-server/config/system` からこのファイルにアクセスできます。

以下の例に示すように、99Local.xml ファイルの `<default-action-policy>` セクションで、制限するアクション・タイプに `<role>[security_group_name]</role>` を追加することで、Process Portal 機能へのアクセスを制限できます。



このグループには、Lombardi セキュリティー・グループを指定する必要があります。Lombardi セキュリティー・グループの作成および保守の詳細については、「*Lombardi 管理ガイド*」の『*グループの作成および保守 (Creating and maintaining groups)*』を参照してください。

```
<action type="ACTION_REASSIGN_TASK_USER_ROLE">
  <role>project_managers</role>
</action>
```

以下に、99Local.xml を変更せずに 100Custom.xml 内のこの構成を変更する手順を示します。

1. Lombardi Process Server または Process Center Server を停止します。
2. テキスト・エディターで、99Local.xml および 100Custom.xml ファイルを開きます。
3. ポータルのデフォルト・アクション・ポリシー・セクションを 99Local.xml から 100Custom.xml にコピーします。
4. 以下の例に示すように、制限する各アクションごとに、<role> エレメントの値を適切なグループ名に設定します。



このグループには、Lombardi セキュリティー・グループを指定する必要があります。Lombardi セキュリティー・グループの作成および保守の詳細については、「*Lombardi 管理ガイド*」の『*グループの作成および保守 (Creating and maintaining groups)*』を参照してください。

```
<portal>
  <default-action-policy>
    <action type="ACTION_REASSIGN_TASK_USER_ROLE" merge="replace">
      <role>project_managers</role>
    </action>
  </default-action-policy>
</portal>
```

5. 変更内容を保存します。
6. Lombardi Process Server または Process Center Server を始動します。

以下の表に、99Local.xml の構成設定を使用してアクセスを制限できる機能をリストします。一部の機能は、デフォルトで tw_admins グループに制限されます。

機能	説明	デフォルトのセキュリティー・グループ
ACTION_ABORT_INSTANCE	プロセス・インスタンスを永続的に終了します。詳細については、 プロセス・インスタンスの終了 を参照してください。	tw_admins
ACTION_SUSPEND_INSTANCE	プロセス・インスタンスを一時的に非アクティブ化します。詳細については、 プロセス・インスタンスの中断 を参照してください。	tw_admins
ACTION_RESUME_INSTANCE	中断状態のプロセス・インスタンスを再開します。詳細については、 中断したプロセス・インスタンスの再開 を参照してください。	tw_admins

機能	説明	デフォルトのセキュリティ・グループ
ACTION_ADD_COMMENT	プロセス・インスタンスにコメントを追加します。詳細については、 プロセス・インスタンスへのコメントの追加 を参照してください。	なし。デフォルトですべてのユーザーが使用できます。
ACTION_ADD_HELP_REQUEST	プロセス・インスタンスまたはその関連タスクのヘルプ要求を他のプロセス参加者に行います。詳細については、 ヘルプ要求の作成 を参照してください。	なし。デフォルトですべてのユーザーが使用できます。
ACTION_RESPOND_HELP_REQUEST	他のプロセス参加者からのヘルプ要求に回答します。詳細については、 ヘルプ要求の表示 を参照してください。	なし。デフォルトですべてのユーザーが使用できます。
ACTION_ASSIGN_TASK	タスクをユーザー自身に割り当てて、自分のみがそのタスクを実行できるようにします。詳細については、 ユーザー自身へのタスクの割り当て を参照してください。	なし。デフォルトですべてのユーザーが使用できます。
ACTION_ASSIGN_AND_RUN_TASK	ユーザーがメンバーとして所属するグループに現在割り当てられているタスクを実行します。このタスクは自動的にこのユーザーに割り当てられます。	なし。デフォルトですべてのユーザーが使用できます。
ACTION_REASSIGN_TASK	タスクの以前の割り当て先であったグループに、そのタスクを割り当てます。詳細については、 以前に割り当てたグループへのタスクの再割り当て を参照してください。	なし。デフォルトですべてのユーザーが使用できます。
ACTION_REASSIGN_TASK_USER_ROLE	異なるユーザーまたはグループにタスクを割り当てます。詳細については、 ユーザーまたはグループへのタスクの割り当て を参照してください。	なし。デフォルトですべてのユーザーが使用できます。
ACTION_CHANGE_TASK_DUEDATE	タスクの期限を変更します。詳細については、 タスクの期限の変更 を参照してください。	tw_admins
ACTION_CHANGE_INSTANCE_DUEDATE	プロセス・インスタンスの期限を変更します。詳細については、 プロセス・インスタンスの期限の変更 を参照してください。	tw_admins
ACTION_CHANGE_TASK_PRIORITY	必要に応じて、タスクの優先順位を変更して、タスクのエスカレートまたは逆エスカレートを行います。詳細については、 タスクの優先順位の変更 を参照してください。	tw_admins
ACTION_MOVE_TOKEN	プロセス・インスタンスの実行を BPD の次のステップに繰り上げます。	tw_admins
ACTION_INJECT_TOKEN	アドホック・イベントを開始します。詳細については、 アドホック・プロセスの開始 を参照してください。	tw_admins
ACTION_VIEW_PROCESS_DIAGRAM	受信ボックスでプロセス・ダイアグラムを表示して、各プロセス・インスタンスごとに現在実行中のステップを確認します。詳細については、 プロセスの進行状況の表示 を参照してください。	tw_admins
ACTION_VIEW_PROCESS_AUDIT	プロセス変数に関するヒストリカル・データを表示します。詳細については、 プロセス・データの監査 を参照してください。	tw_admins

カスタム Process Portal ページの作成

開発者が Lombardi Authoring Environment の Designer で作成した Human サービスは、カスタム Process Portal ページとして公開できます。Human サービスの詳細、およびこのサービスを適切に公開して Lombardi Process Portal でプロジェクト・ページとして使用可能にする方法については、「*Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド*」またはオンライン・ヘルプの以下のトピックを参照してください。

- サービスの作成
- Human サービスのビルド
- Human サービスの公開

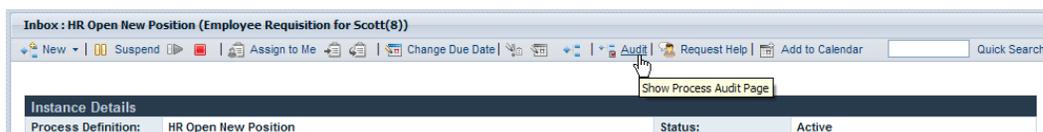
プロジェクト・ページとして公開する Human サービスは、「My Projects」カテゴリーの下で選択されている参加者グループのメンバーが使用できます。カスタム・プロジェクト・ページの名前は、公開したサービスの名前と同じになります。

プロセス・データの監査

Lombardi Process Portal では、プロセス・インスタンスのビジネス・データを監査できます。作業を開始する前に、以下の点に注意してください。

- プロセス・データの監査は、`<action type="ACTION_VIEW_PROCESS_AUDIT">` セクションの `99Local.xml` ファイルで定義されたセキュリティ・グループに制限されます。デフォルト・グループは `tw_admins` です。詳しくは、[Process Portal 機能へのアクセスの制限](#)を参照してください。
- 監査できるのは、Lombardi Authoring Environment の Designer でトラッキングのために構成した変数のみです。トラッキングを構成するには、Designer で BPD を開き、「**Variables**」タブに移動します。監査する各変数を選択し、「**Performance Tracking**」の下にある「**Track This Field**」チェック・ボックスにチェック・マークを付けます。

1. 「**My Tasks**」 > 「**Inbox**」から、データを監査するプロセス・インスタンスの名前をクリックします。
2. プロセス・インスタンスの詳細ページから、以下の図に示すように、ツールバーの「**Audit**」をクリックします。



3. 以下の図に示すように、ドロップダウン・リストからビジネス変数を選択できます。

Variable Name	Who	When	Old Value	New Value	Step
NODE_ID	System	rhibranch		2	Start
	tw_admin	rhidistrict	2	3	Enhance
	System	rhidivision	3	4	Track
	System	rhiregion	4	5	End
	System	rhizone	5		
rhibranch	tw_admin	temperature		Miami	Enhance

- プロセスのトラッキング対象の変数のリストが表示され、変数ごとに変更の履歴が表示されま
す。監査レポートでは、以下の図に示すように、変更者、変更時刻、新旧の値、変更時のプロセスの
ステップまたはアクティビティーを確認できます。

Business Variables Audit Show All					
Variable Name	Who	When	Old Value	New Value	Step
rhibranch	tw_admin	10/20/09 7:37 PM		Miami	Enhance
rhidistrict	tw_admin	10/20/09 7:37 PM		NorthEast	Enhance
rhidivision	tw_admin	10/20/09 7:37 PM		Accountemps	Enhance
rhiregion	tw_admin	10/20/09 7:37 PM		Florida	Enhance
rhizone	tw_admin	10/20/09 7:37 PM		US	Enhance
temperature	tw_admin	10/20/09 7:37 PM		Cold	Enhance

設定の変更

Lombardi Process Portal で設定を変更するには、以下の手順を実行します。

- ポータルの上にある「**Preferences**」リンクをクリックします。
- Eメール・アドレスを変更する場合は、「emailaddress」フィールドに新しいEメール・アドレスを
入力します。
- タスクの送信ごとにEメールを受信する場合は、「**Receive e-mail on task sent**」オプションにチェッ
ク・マークを付けます。
- インターフェース言語を変更する場合は、[Process Portal の言語の設定](#)を参照してください。
- タスクを実行してそのタスクを自動的にユーザー自身に割り当てるときに確認ウィンドウを表示する
場合は、「**Show confirmation window on Assign And Run**」オプションにチェック・マークを付
けます。
- 「**Save Changes**」ボタンをクリックします。設定ページが最新表示になり、新しい設定が表示され
ます。

Process Portal の言語の設定

Lombardi Process Portal の優先言語を指定するには、以下の手順を実行します。

- ポータルの上にある「**Preferences**」リンクをクリックします。
- 「**Interface language**」リスト・ボックスから、優先する言語を選択します。

WebSphere Lombardi のインストール時に選択した言語パックによって、このリストで選択可能な言
語が設定されます。

選択したロケール設定は、現在ログイン中のユーザーに適用されます。同じ環境内の同じユーザーが
開始した各 Lombardi インターフェースは、この設定を使用します。

- 「**Save Changes**」ボタンをクリックします。Process Portal にログインすると、常に選択した言語
ですべての要素が表示されます。

Process Portal での統合認証の使用

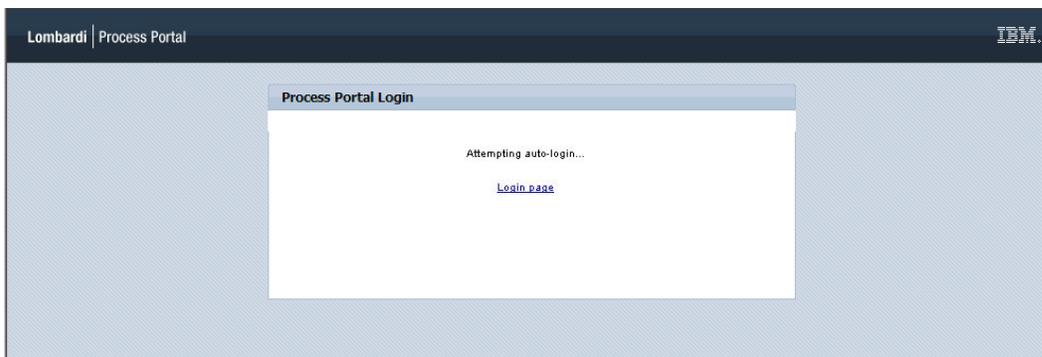
Lombardi は、自動ログイン (多くの場合、シングル・サインオンまたは SSO と呼ばれます) をサポートします。自動ログインでは、現行 Windows ユーザーの資格情報を使用して Lombardi で認証が行われるため、構成のオーバーヘッドが減り、認証プロセスが単純化されます。これを使用して Lombardi ユーザーは Lombardi Process Portal に自動的にログインできます。



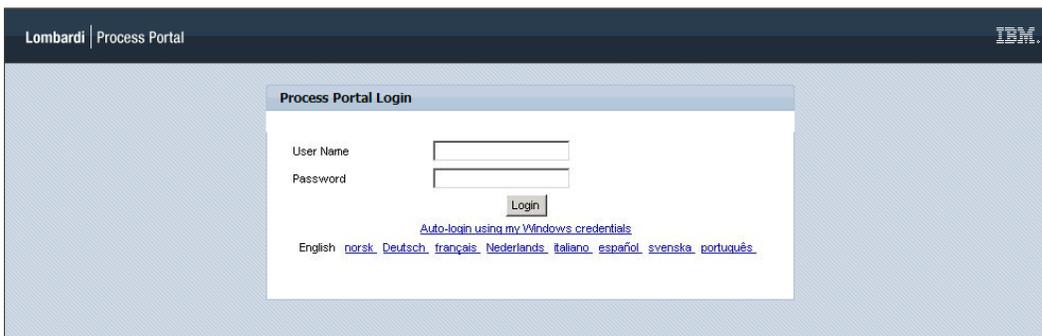
このトピックで説明されているように Lombardi Process Portal に自動ログインするには、シングル・サインオンが適切に構成されている必要があります。説明については、ご使用の環境に該当する「WebSphere Lombardi Edition インストールおよび構成ガイド」を参照してください。

Internet Explorer で Lombardi Process Portal の統合認証を使用する場合の認証処理を以下に示します。

- Process Portal を起動するときにログインする必要はありません。Process Portal を開くと、ポップアップ・ウィンドウが一時的に表示されます。



- Process Portal をログアウトしてから、「**Auto-login using my Windows credentials**」リンクをクリックすると、再びログオンできます。



Internet Explorer 以外のブラウザを使用する場合、これらの画面は表示されません。

Lombardi Process Portal のルック・アンド・フィールのカスタマイズ

Lombardi Process Portal のデザインは、スキンにグループ化されているカスケーディング・スタイル・シート (CSS) ファイルによって制御されます。Lombardi Process Portal のルック・アンド・フィールを変更して企業の独自性を反映する場合は、カスタム・スキンを作成して使用します。

カスタム・スキンをデフォルト・スキンとして適用するには、以下の手順を実行します。

1. 既存の portal.war ファイルのバックアップ・コピーを作成し、Lombardi サーバーをシャットダウンします。portal.war ファイルは、
[Lombardi_home]/[process-center|process-server]/portal-app ディレクトリー内にあります。
2. [Lombardi_home]/[process-center|process-server]/portal-app/portal.war/skins/Leapfrog でデフォルト・スキンを見つけます。



以前のデフォルト・スキンは、
[Lombardi_home]/[process-center|process-server]/portal-app/portal.war/skins
の Default および Gray ディレクトリー内で取得できます。

3. Leapfrog ディレクトリーのコピーを作成します。
4. 必要に応じて、コピーしたディレクトリー内のイメージおよびCSSファイルをカスタマイズします。



元の Leapfrog スキン・ディレクトリーはそのままの状態にして、コピーのみを変更します。

5. 変更内容を CSS ファイルおよびイメージに保存します。
6. [Lombardi_home]/[process-center|process-server]/config/system/99Local.xml
ファイルの portal-theme タグを
[Lombardi_home]/[process-center|process-server]/config/100Custom.xml ファイル
にコピーします。
7. 新しいカスタム・スキンを入れるディレクトリー名と一致するように portal-theme タグを変更し、
変更内容を保存します。

例えば、以前のデフォルト・スキンに変更するだけの場合、このタグを
<portal-theme>Default</portal-theme> に設定します。

8. [Lombardi_home]/[process-center|process-server]/portal-app/redeploy-portal
[.cmd or .sh] を実行します。
9. 新しいデザインを確認するには、[Lombardi Process Portal の始動](#)に説明されているように、Lombardi
サーバーを再始動して Lombardi Process Portal を始動します。

特記事項および商標

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒242-8502

神奈川県大和市下鶴間1623番14号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

Intellectual Property Dept. for WebSphere Software

IBM Corporation

3600 Steeles Ave. East

Markham, Ontario

Canada L3R 9Z7

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っていません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM 対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。

© Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml [http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml] をご覧ください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。